



CHAPTER 4

Cisco CDA コマンド リファレンス

この章では、Cisco Context Directory Agent (Cisco CDA) に固有のコマンドをアルファベット順に示します。

コマンドには、次のモードがあります。

- EXEC
 - システムレベル
 - 表示
- 設定
 - コンフィギュレーション サブモード



(注) コンフィギュレーション モードにアクセスするには、EXEC モードでシステムレベルの **config** コマンドまたは **configure** コマンドを使用します。

この章では、コマンドごとに、その使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。この章では、Cisco CDA サーバは、Cisco CDA サーバのホスト名の代わりに *CDA* という名前を使用します。



(注) コマンドを使用してエラーが発生した場合は、**debug** コマンドを使用して、エラーの原因を判断してください。

この付録では、次の各項目について説明します。

- 「EXEC コマンド」 (P.4-2)
- 「show コマンド」 (P.4-49)
- 「コンフィギュレーション コマンド」 (P.4-80)

EXEC コマンド

この項では、各 EXEC コマンドを一覧表示し、使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および出力例を示します。

表 4-1 に、この項で説明する EXEC コマンドの一覧を示します。

表 4-1 EXEC コマンドの一覧

<ul style="list-style-type: none"> • application install • application remove • application reset-config • application reset-passwd • application start • application stop • application upgrade • backup • backup-logs • clock • configure • copy • debug 	<ul style="list-style-type: none"> • delete • dir • exit • forceout • halt • help • mkdir • nslookup • patch install • patch remove • ping • ping6 • reload 	<ul style="list-style-type: none"> • restore • rmdir • show (show コマンド を参照) • ssh • tech • telnet • terminal length • terminal session-timeout • terminal session-welcome • terminal terminal-type • traceroute • undebg • write
---	--	---

application install



(注)

Cisco CDA アプリケーションは、サポート対象のすべてのアプライアンスおよび VMware 上に提供された ISO イメージでプリインストールされているため、通常運用下では CLI から **application install** コマンドを実行できません。

Cisco CDA 以外の特定のアプリケーションをインストールするには、EXEC モードで **application install** コマンドを実行します。この機能を削除するには、**application remove** コマンドを使用します。

application install *application-bundle remote-repository-name*

構文の説明

<code>application</code>	アプリケーションのインストールと管理のための <code>application</code> コマンド。
<code>install</code>	特定のアプリケーションをインストールします。
<code>application-bundle</code>	アプリケーション バンドルのファイル名。255 文字までの英数字で指定します。
<code>remote-repository-name</code>	リモート リポジトリ名。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン

指定したアプリケーション バンドルをアプライアンスにインストールします。アプリケーション バンドル ファイルは、指定したリポジトリから取得されます。

アプリケーションをインストールまたは削除している間に、**application install** コマンドや **application remove** コマンドを別途実行すると、次の警告メッセージが表示されます。

An existing application install, remove, or upgrade is in progress. Try again shortly.

例

```
/admin# application install cda-appbundle-1.0.0.011.i386.tar.gz myrepository
```

```
Save the current ADE-OS running configuration? (yes/no) [yes] ?
Generating configuration...
Saved the ADE-OS running configuration to startup successfully
Initiating Application installation...
```

```
Application successfully installed
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application install	アプリケーションを設定します。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application reset-config	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
application reset-passwd	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
show application	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

application remove



(注)

アップグレードのために明示的に指示された場合を除いて、CLI から **application remove** コマンドを実行して Cisco CDA アプリケーションを削除することはできません。

Cisco CDA 以外の特定のアプリケーションを削除するには、EXEC モードで **application remove** コマンドを実行します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

application remove *application-name*

構文の説明

<i>application</i>	アプリケーションのインストールと管理のための application コマンド。
<i>remove</i>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<i>application-name</i>	アプリケーション名。255 文字までの英数字で指定します。

EXEC コマンド

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン アプリケーションを削除またはアンインストールします。

例

```
/admin# application remove cda
Continue with application removal? [y/n] y

Application successfully uninstalled
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application install	アプリケーションを設定します。
application install	アプリケーションバンドルをインストールします。
application reset-config	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
application reset-passwd	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	アプリケーションバンドルをアップグレードします。
show application	システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示します。

application reset-config

Cisco CDA アプリケーション設定をリセットし、Cisco CDA データベースをクリアするには、EXEC モードで **application reset-config** コマンドを使用します（このコマンドは、IP アドレス、ネットマスク、管理者ユーザ インターフェイス パスワードなどの初期シャーシ コンフィギュレーションの設定をリセットしません）。このリセット機能の一環として、新しい Cisco CDA 管理者名とパスワードを入力する必要があります。

application reset-config *application-name*

構文の説明

<code>application</code>	アプリケーションのインストールと管理のための <code>application</code> コマンド。
<code>reset-config</code>	Cisco CDA アプリケーションの設定をリセットし、Cisco CDA データベースをクリアします。
<code><i>application-name</i></code>	リセットするアプリケーション設定の名前。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン

application reset-config コマンドを使用すると、Cisco CDA アプライアンスまたは VMware を再イメージ化せずに、Cisco CDA コンフィギュレーションのリセットおよび Cisco CDA データベースのクリアを行うことができ、また Cisco CDA ユーザ名とパスワードをリセットできます。



(注) **application reset-config** コマンドは Cisco CDA コンフィギュレーションを出荷時の初期状態にリセットしますが、オペレーティング システム (Cisco ADE-OS) コンフィギュレーションはそのまま残ります。Cisco ADE-OS コンフィギュレーションには、ネットワーク設定、CLI パスワード ポリシー、およびバックアップ履歴などの項目が含まれます。

例

例 1

```
/admin# application reset-config cda
The existing configuration will be lost. Are you sure? [Y/n] Y
Stopping CDA Watchdog...
Stopping CDA Application Server...
Stopping AD Context Manager...
Stopping AD Context Observer...
Stopping CDA Logger...
Enter the CDA administrator username to create[admin]:
Enter the password for 'admin':
Re-enter the password for 'admin':
Starting CDA...
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application install	アプリケーションを設定します。
application install	アプリケーション バンドルをインストールします。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application reset-passwd	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
show application	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

application reset-passwd

ユーザ アカウント クレデンシャルを失った後、Cisco CDA 内で指定されたユーザ アカウント（一般には既存の管理者アカウント）の管理者ユーザ インターフェイス ログイン パスワードをリセットするには、EXEC モードで **application reset-passwd** コマンドを使用します。

application reset-passwd *application-name administrator-ID*

application	アプリケーションのインストールと管理のための application コマンド。
reset-passwd	管理者アカウントのパスワードをリセットします。
<i>application-name</i>	アプリケーション名。255 文字までの英数字で指定します。
<i>administrator-ID</i>	無効になっているため、パスワードをリセットする既存の管理者アカウントの名前。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

管理者パスワードをリセットします。

例

```
admin# application reset-passwd cda admin
Enter new password: *****
Confirm new password: *****

Password reset successfully.
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application install	アプリケーションを設定します。
application install	アプリケーション バンドルをインストールします。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application reset-config	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
show application	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

application start

特定のアプリケーションをイネーブルにするには、EXEC モードで **application start** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

application start *application-name*

構文の説明	application	アプリケーションのインストールと管理のための application コマンド。
	start	アプリケーションバンドルをイネーブルにします。
	<i>application-name</i>	イネーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン アプリケーションをイネーブルにします。
このコマンドは、Cisco CDA アプリケーションの起動には使用できません。このコマンドを使用してアプリケーションを起動すると、Cisco CDA がすでに実行されていることを確認できます。

例
/admin# **application start cda**
Starting CDA...

show application status cda コマンドを使用して、Cisco CDA のステータスを確認できます。Cisco CDA を起動した直後にステータスを確認すると、次の出力が表示されます。

```
/admin# show application status cda
CDA Application Server process is not running.
```

しかし、少し後に次のような出力になります。

```
/admin# show application status cda
CDA Application Server is running, PID: 16420
```

関連コマンド	コマンド	説明
	application install	アプリケーションを設定します。
	application install	アプリケーションバンドルをインストールします。
	application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
	application reset-config	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
	application reset-passwd	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
	application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
	application upgrade	アプリケーションバンドルをアップグレードします。
	show application	システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示します。

application stop

特定のアプリケーションをディセーブルにするには、EXEC モードで **application stop** コマンドを使用します。

application stop *application-name*

構文の説明

<code>application</code>	アプリケーションのインストールと管理のための <code>application</code> コマンド。
<code>stop</code>	アプリケーションをディセーブルにします。
<i>application-name</i>	ディセーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションをディセーブルにします。

例

```
/admin# application stop cda

Stopping CDA Watchdog...
Stopping CDA Application Server...
Stopping AD Context Manager...
Stopping AD Context Observer...
Stopping CDA Logger...

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>application install</code>	アプリケーションを設定します。
<code>application install</code>	アプリケーションバンドルをインストールします。
<code>application remove</code>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<code>application reset-config</code>	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
<code>application reset-passwd</code>	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
<code>application start</code>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<code>application upgrade</code>	アプリケーションバンドルをアップグレードします。
<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示します。

application upgrade

特定のアプリケーション バンドルをアップグレードするには、EXEC モードで **application upgrade** コマンドを使用します。

application upgrade *application-bundle remote-repository-name*

構文の説明

application	アプリケーションのインストールと管理のための application コマンド。
upgrade	リモート リポジトリ内の特定のアプリケーション バンドルをアップグレードします。
<i>application-bundle</i>	アプリケーション名。255 文字までの英数字で指定します。
<i>remote-repository-name</i>	リモート リポジトリ名。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーション バンドルをアップグレードし、アプリケーション設定データを保存します。

アプリケーションを別途アップグレードしている間に、**application upgrade** コマンドを実行すると、次の警告メッセージが表示されます。

An existing application install, remove, or upgrade is in progress. Try again shortly.



注意

アップグレード中は、**backup** または **restore** コマンドを実行しないでください。このアクションを実行すると、データベースが破損する可能性があります。



(注)

このアプリケーション アップグレード コマンドを使用して新しいリリースにアップグレードする前に、その新しいリリースに付随するリリース ノートのアップグレード手順を参照する必要があります。リリース ノートには、新しいリリースにアップグレードするために更新された重要な手順が含まれており、それに従う必要があります。

例

```
/admin# application upgrade cda-appbundle-1.1.0.362.i386.tar.gz http
Save the current ADE-OS running configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the ADE-OS running configuration to startup successfully
Initiating Application Upgrade...
Stopping CDA application before upgrade...
Running CDA Database upgrade...
Upgrading CDA Database schema...
CDA Database schema upgrade completed.

Application upgrade successful
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>application install</code>	アプリケーションを設定します。
<code>application install</code>	アプリケーション バンドルをインストールします。
<code>application remove</code>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<code>application reset-config</code>	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
<code>application reset-passwd</code>	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
<code>application start</code>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<code>application stop</code>	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

backup

Cisco CDA コンフィギュレーション データのバックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存するには、EXEC モードで **backup** コマンドを実行します。Cisco ADE OS データを含めず、Cisco CDA アプリケーション データのみのバックアップを実行するには、**application** コマンドを使用します。



(注)

EXEC モードでこの **backup** コマンドを使用する前に、実行コンフィギュレーションをネットワーク サーバなどの安全な場所にコピーするか、CDA サーバのスタートアップ コンフィギュレーションとして保存する必要があります。Cisco CDA アプリケーションをバックアップおよびシステム ログから復元またはトラブルシューティングするときに、このスタートアップ コンフィギュレーションを使用できます。実行コンフィギュレーションからスタートアップ コンフィギュレーションへのコピーの詳細については、「[copy](#)」(P.4-14) を参照してください。

backup *backup-name* **repository** *repository-name* **application** *application-name*

構文の説明

<code>backup</code>	Cisco CDA と Cisco ADE OS のバックアップを実行し、バックアップをリポジトリに格納するコマンド。
<i>backup-name</i>	バックアップ ファイルの名前。100 文字までの英数字で指定します。
<code>repository</code>	リポジトリ コマンド。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。80 文字までの英数字で指定します。
<code>application</code>	<code>application</code> コマンド (Cisco ODE OS システム データを除く、アプリケーションのみのバックアップ)。
<i>application-name</i>	アプリケーション名。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

Cisco CDA および Cisco ADE OS データのバックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。

Cisco ADE OS データを含めず、Cisco CDA アプリケーション データのみのバックアップを実行するには、**application** コマンドを使用します。

例**例 1**

```
/admin# backup mybackup repository myrepository
% Creating backup with timestamped filename: backup-111125-1252.tar.gpg
/admin#
```

例 2

```
/admin# backup mybackup repository myrepository application cda
% Creating backup with timestamped filename: backup-111125-1235.tar.gpg
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
backup-logs	システム ログをバックアップします。
delete	Cisco CDA サーバ上のファイルを削除します。
dir	Cisco CDA サーバ上のファイルを一覧表示します。
reload	システムをリブートします。
repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。
show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

backup-logs

システム ログをバックアップするには、EXEC モードで **backup-logs** コマンドを使用します。

backup-logs *backup-name* **repository** *repository-name*

構文の説明

<code>backup-logs</code>	システム ログおよびアプリケーション ログをリポジトリにバックアップするコマンド。
<i>backup-name</i>	バックアップする 1 つまたは複数のファイルの名前。100 文字までの英数字で指定します。
<code>repository</code>	リポジトリ コマンド。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。80 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

EXEC コマンド

使用上のガイドライン

暗号化された（ハッシュ）パスワードまたは暗号化されていないプレーン テキスト パスワード付きでシステム ログをバックアップします。

例

```
/admin# backup-logs mybackup repository myrepository encryption-key plain lab12345
% Creating log backup with timestamped filename: mybackup-111125-1117.tar.gpg
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>backup</code>	(Cisco CDA および Cisco ADE OS) バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
<code>restore</code>	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
<code>repository</code>	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
<code>show backup history</code>	システムのバックアップ履歴を表示します。
<code>show repository</code>	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

clock

システム クロックを設定するには、EXEC モードで **clock** コマンドを使用します。

clock set [*month day hh:min:ss yyyy*]

構文の説明

<code>clock set</code>	システム クロックを設定するコマンド。
<i>month</i>	現在の月の名前。3 文字までの英字で指定します。たとえば、January は Jan と指定します。
<i>day</i>	現在の日（日付）。有効な値は 0 ～ 31 の範囲です。2 桁までの数値で指定します。
<i>hh:mm:ss</i>	現在の時間（24 時間形式）、分、および秒。
<i>yyyy</i>	現在の年（短縮表記しない）

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

システム クロックを設定します。変更を有効にするためには、クロックをリセットした後、Cisco CDA サーバを再起動する必要があります。（NTP が設定された）通常の状況では、このコマンドを使用してシステム クロックを手動で設定する理由はありません。



警告

Cisco CDA アプライアンス上のシステム時刻を変更すると、Cisco CDA アプリケーションが導入環境で使用できなくなります。



(注)

インストール時に正しいシステム時刻が設定されるようにするため、セットアップ ウィザードは、NTP サーバの入力を要求して同期を試みます。システム時刻を常に正確に維持するため、セットアップ中は設定された NTP サーバに常時接続できるようにしておく必要があります。これは、電源障害や CMOS バッテリ障害のために BIOS 時刻が不正確となり、その結果としてリブート時に ADE-OS システム時刻が正しくなくなる可能性がある場合に、特に重要です。

例

```
/admin# clock set May 5 18:07:20 2010
/admin# show clock
Thu May 5 18:07:26 UTC 2010
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	システム ソフトウェア クロックに設定されている日付と時刻を表示します。

configure

コンフィギュレーション モードに入るには、EXEC モードで **configure** コマンドを使用します。このコマンドで **replace** オプションを使用すると、リモート設定がシステムにコピーされ、既存の設定が上書きされます。

configure terminal

構文の説明

configure	コンフィギュレーション モードを開始するコマンド。
terminal	コンフィギュレーション コマンドを端末から実行します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

このコマンドは、コンフィギュレーション モードを開始する場合に使用します。このモードのコマンドは、(Enter を押して) 入力するとすぐに、実行コンフィギュレーション ファイルへの書き込みを行います。

コンフィギュレーション モードを終了して EXEC モードに戻るには、**end** または **exit** と入力するか、Ctrl+z を押します。

コンフィギュレーション に行った変更内容を表示するには、EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

例

例 1

```
/admin# configure
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
```

```
/admin(config)#
```

例 2

```
/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per lineAug.nd with CNTL/Z.
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

copy

ファイルをコピー元からコピー先にコピーするには、EXEC モードで **copy** コマンドを使用します。Cisco CDA で **copy** コマンドを実行すると、コンフィギュレーション（実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーション）がコピーされます。

実行コンフィギュレーション

Cisco CDA のアクティブなコンフィギュレーションでは、そのコンフィギュレーション自体が Cisco CDA RAM に保存されます。入力するすべてのコンフィギュレーション コマンドは、実行コンフィギュレーションに含まれます。Cisco CDA サーバをリブートすると、実行コンフィギュレーションが失われます。加えた変更を保存する場合は、実行コンフィギュレーションをネットワーク サーバなどの安全な場所にコピーするか、Cisco CDA サーバのスタートアップ コンフィギュレーションとして保存する必要があります。

スタートアップ コンフィギュレーション

スタートアップ コンフィギュレーションは直接編集できません。入力するすべてのコマンドは、実行コンフィギュレーションに保存され、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーすることができます。

つまり、Cisco CDA サーバをブートすると、スタートアップ コンフィギュレーションが最初の実行コンフィギュレーションとなります。コンフィギュレーションを変更すると、実行コンフィギュレーションは更新されますがスタートアップ コンフィギュレーションは変更されないため、2つのコンフィギュレーションに差異が生じます。変更を永続的なものにするには、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーする必要があります。

次のコマンドラインは、使用可能な **copy** コマンド シナリオの一部を示しています。

copy running-config startup-config : 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

copy run start : スタートアップ コンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションに置き換えます。



(注) 実行コンフィギュレーションを保存しない場合、次回 Cisco CDA サーバをリブートしたときに、コンフィギュレーションに加えた変更がすべて失われます。現在のコンフィギュレーションが正しいことが確認できたら、**copy run start** コマンドを使用して、コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

copy startup-config running-config : スタートアップ コンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションにコピーします。

copy start run : スタートアップ コンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションにマージします。

copy [protocol://hostname/location] startup-config : リモート ファイルをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーしますが、マージはしません。

copy [protocol://hostname/location] running-config : リモート ファイルを実行コンフィギュレーションにコピーしてマージします。

copy startup-config [protocol://hostname/location] : スタートアップ コンフィギュレーションをリモート システムにコピーします。

copy running-config [protocol://hostname/location] : 実行コンフィギュレーションをリモート システムにコピーします。

copy logs [protocol://hostname/location] : システムのログ ファイルを別の場所にコピーします。



(注)

copy コマンドは、ローカル ディスクに対してだけサポートされており、リポジトリに対してはサポートされていません。

構文の説明

copy	項目をコピーするコマンド。
running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルを表します。
startup-config	初期化 (スタートアップ) 時に使用されたコンフィギュレーション ファイルを表します。
protocol	プロトコル キーワードのオプションについては、表 4-2 を参照してください。
hostname	コピー先のホスト名。
location	コピー先の場所。
logs	システムのログ ファイル。
all	すべての Cisco CDA ログ ファイルをシステムから別の場所にコピーします。すべてのログは、 cdalogs.tar.gz としてパッケージ化され、リモート ホストの指定されたディレクトリに転送されます。
filename	単一の Cisco CDA ログ ファイルをコピーし、そのファイルをリモート ホストにある指定されたディレクトリに、元の名前で転送します。
log_filename	show logs コマンドによって表示される Cisco CDA ログ ファイルの名前 (255 文字以内)。
mgmt	Cisco CDA 管理デバッグ ログと Tomcat ログをシステムからコピーし、 mgmtlogs.tar.gz としてバンドルしたうえで、リモート ホスト上の指定されたディレクトリに転送します。
runtime	Cisco CDA ランタイム デバッグ ログをシステムからコピーし、 runtimelogs.tar.gz としてバンドルしたうえで、リモート ホスト上の指定されたディレクトリに転送します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン

copy コマンドの基本的な機能として、1 つの場所から別の場所に、ファイル（システム イメージやコンフィギュレーション ファイルなど）をコピーできます。指定したファイルのコピー元およびコピー先には、Cisco CDA ファイル システムを使用して、サポートされているローカルまたはリモート ファイルの場所を指定できます。使用されているファイル システム（ローカル メモリ ソースまたはリモート システム）によって、コマンドで使用される構文が決定されます。

必要なすべてのコピー元とコピー先の情報、および使用するユーザ名とパスワードをコマンドラインに入力できます。または、**copy** コマンドを入力して、不足情報がある場合にサーバにプロンプトを表示させることができます。



ワンポイントアドバイス

エイリアスを使用すると、入力を省力化できます。たとえば、**copy run start**（**copy running-config startup-config** コマンドの省略形）と入力することができます。

コピー プロセスが完全に完了するまでには、数分間かかることがあります。これは、使用しているプロトコルやネットワークによって異なります。

ファイル転送には、ディレクトリに対する相対ファイル名を使用します。

その場合、標準の FTP または SCP エラー メッセージが発生することがあります。

表 4-2 プロトコル プレフィックスのキーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
ftp	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文： ftp:[[/username[:password]@]location]/directory]/filename
scp	SCP ネットワーク サーバの発信元または送信先の URL。このエイリアスの構文： scp:[[/username[:password]@]location]/directory]/filename
sftp	SFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文： sftp:[[/location]/directory]/filename
tftp	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文： tftp:[[/location]/directory]/filename

例

例 1

```
/admin# copy run start
Generating configuration...
/admin#
```

例 2

```
/admin# copy running-config startup-config
Generating configuration...
/admin#
```


例 3

```
/admin# copy start run
/admin#
```

例 4

```
/admin# copy startup-config running-config
/admin#
```

例 5

```
/admin# copy logs disk:/
Collecting logs...
/admin#
```

例 6

```
/admin# copy disk://mybackup-100805-1910.tar.gz ftp://myftpserver/mydir
Username:
Password:
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application install	Cisco CDA インスタンスを起動または停止します。
backup	(Cisco CDA および Cisco ADE OS) バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
delete	Cisco CDA サーバ上のファイルを削除します。
dir	Cisco CDA サーバ上のファイルを一覧表示します。
reload	システムをリブートします。
restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
show application	アプリケーション ステータスとバージョン情報を表示します。
show version	システムのソフトウェア バージョンについての情報を表示します。

debug

コマンドの状況に対するエラーまたはイベントを表示するには、EXEC モードで、**debug** コマンドを使用します。

```
debug {all | application | backup-restore | cdp | config | icmp | copy | locks | logging | snmp |
system | transfer | user | utils}
```

構文の説明

debug	Cisco CDA サーバのさまざまなエラーを識別するコマンド。
all	すべてのデバッグをイネーブルにします。

application	<p>アプリケーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのアプリケーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>install</i> : アプリケーションのインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>operation</i> : アプリケーション操作のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>uninstall</i> : アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。
backup-restore	<p>ファイルをバックアップおよび復元します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>backup</i> : バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>backup-logs</i> : バックアップおよび復元で、バックアップ ログのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>history</i> : バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>restore</i> : バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。
cdp	<p>Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーション デバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>config</i> : Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーション デバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>infra</i> : Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャ デバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。

config	<p>コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>backup</i> : バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>clock</i> : クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>infra</i> : コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>kron</i> : コマンド スケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>network</i> : ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>repository</i> : リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>service</i> : サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。
icmp	<p>インターネット制御メッセージ プロトコル (ICMP) のエコー応答コンフィギュレーション。</p> <p><i>all</i> : ICMP エコー応答コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</p>
copy	<p>コピー コマンド。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</p>
locks	<p>リソース ロッキング。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 • <i>file</i> : ファイル ロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。
logging	<p>ロギング コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i> : すべてのロギング コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</p>
snmp	<p>SNMP コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i> : すべての SNMP コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</p>

EXEC コマンド

system	システム ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> <i>all</i> : すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 <i>id</i> : システム ID のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 <i>info</i> : システム情報のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 <i>init</i> : システムの初期化のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。
transfer	ファイル転送。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。
user	ユーザ管理。 <ul style="list-style-type: none"> <i>all</i> : すべてのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。 <i>password-policy</i> : パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。
utils	ユーティリティ コンフィギュレーション ファイル。 <i>all</i> : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

セットアップ エラーやコンフィギュレーション エラーなど、Cisco CDA サーバ内のさまざまなエラーを識別するには、**debug** コマンドを使用します。

例

```

/admin# debug all
/admin# mkdir disk:/1
/admin# 6 [15347]: utils: vsh_root_stubs.c[2742] [admin]: mkdir operation success

/admin# rmdir disk:/1
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2601] [admin]: Invoked Remove Directory disk:/1 command
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2663] [admin]: Remove Directory operation success
/admin#

/admin# undebug all
/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
undebug	さまざまなコマンドの状況で、 debug コマンドの出力（エラーまたはイベントの表示）をディセーブルにします。

delete

Cisco CDA サーバからファイルを削除するには、EXEC モードで **delete** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

delete filename [disk:/path]

構文の説明		
	delete	Cisco CDA からファイルを削除するコマンド。
	<i>filename</i>	ファイル名。80 文字までの英数字で指定します。
	<i>disk:/path</i>	場所。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン コンフィギュレーション ファイルまたはイメージを削除しようとする、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。また、最新の有効なシステム イメージを削除しようとした場合も、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。

例

```
/admin# delete disk:/hs_err_pid19962.log
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dir	Cisco CDA サーバ上のすべてのファイルを一覧表示します。

dir

Cisco CDA サーバ上のファイルを一覧表示するには、EXEC モードで **dir** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dir [word] [recursive]

構文の説明		
	dir	ローカル システム上のファイルを一覧表示するコマンド。
	<i>word</i>	ディレクトリ名。80 文字までの英数字で指定します。ディレクトリ名の前には disk:/ を指定する必要があります。
	<i>recursive</i>	ローカル ディレクトリまたはファイル名を再帰的に一覧表示します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 1

```
/admin# dir

Directory of disk:/

 2034113 Aug 05 2010 19:58:39 ADElogs.tar.gz
   4096 Jun 10 2010 02:34:03 activemq-data/
   4096 Aug 04 2010 23:14:53 logs/
 16384 Jun 09 2010 02:59:34 lost+found/
2996022 Aug 05 2010 19:11:16 mybackup-100805-1910.tar.gz
   4096 Aug 04 2010 23:15:20 target/
   4096 Aug 05 2010 12:25:55 temp/

Usage for disk: filesystem
      8076189696 bytes total used
      6371618816 bytes free
      15234142208 bytes available

/admin#
```

例 2

```
/admin# dir disk:/logs

0 Aug 05 2010 11:53:52 usermgmt.log

Usage for disk: filesystem
      8076189696 bytes total used
      6371618816 bytes free
      15234142208 bytes available

/admin#
```

例 3

```
/admin# dir recursive

Directory of disk:/

 2034113 Aug 05 2010 19:58:39 ADElogs.tar.gz
2996022 Aug 05 2010 19:11:16 mybackup-100805-1910.tar.gz
   4096 Aug 04 2010 23:14:53 logs/
   4096 Aug 05 2010 12:25:55 temp/
   4096 Jun 10 2010 02:34:03 activemq-data/
   4096 Aug 04 2010 23:15:20 target/
 16384 Jun 09 2010 02:59:34 lost+found/

Directory of disk:/logs

 0 Aug 05 2010 11:53:52 usermgmt.log

Directory of disk:/temp

 281 Aug 05 2010 19:12:45 RoleBundles.xml
6631 Aug 05 2010 19:12:34 PipDetails.xml
 69 Aug 05 2010 19:12:45 GroupRoles.xml
 231 Aug 05 2010 19:12:34 ApplicationGroupTypes.xml
544145 Aug 05 2010 19:12:35 ResourceTypes.xml
```

```

45231 Aug 05 2010 19:12:45 UserTypes.xml
  715 Aug 05 2010 19:12:34 ApplicationGroups.xml
  261 Aug 05 2010 19:12:34 ApplicationTypes.xml
 1010 Aug 05 2010 19:12:34 Pdps.xml
1043657 Aug 05 2010 19:12:44 Groups.xml
281003 Aug 05 2010 19:12:38 Resources.xml
  69 Aug 05 2010 19:12:45 GroupUsers.xml
 2662 Aug 05 2010 19:12:44 RoleTypes.xml
  79 Aug 05 2010 19:12:34 UserStores.xml
 4032 Aug 05 2010 19:12:38 GroupTypes.xml
 1043 Aug 05 2010 19:12:34 Organization.xml
58377 Aug 05 2010 19:12:46 UserRoles.xml
  300 Aug 05 2010 19:12:45 Contexts.xml
  958 Aug 05 2010 19:12:34 Applications.xml
28010 Aug 05 2010 19:12:45 Roles.xml
122761 Aug 05 2010 19:12:45 Users.xml

```

Directory of disk:/activemq-data

```

4096 Jun 10 2010 02:34:03 localhost/

```

Directory of disk:/activemq-data/localhost

```

  0 Jun 10 2010 02:34:03 lock
4096 Jun 10 2010 02:34:03 journal/
4096 Jun 10 2010 02:34:03 kr-store/
4096 Jun 10 2010 02:34:03 tmp_storage/

```

Directory of disk:/activemq-data/localhost/journal

```

33030144 Aug 06 2010 03:40:26 data-1
 2088 Aug 06 2010 03:40:26 data-control

```

Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store

```

4096 Aug 06 2010 03:40:27 data/
4096 Aug 06 2010 03:40:26 state/

```

Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store/data

```

 102 Aug 06 2010 03:40:27 index-container-roots
  0 Aug 06 2010 03:40:27 lock

```

Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store/state

```

3073 Aug 06 2010 03:40:26 hash-index-store-state_state
  51 Jul 20 2010 21:33:33 index-transactions-state
  204 Aug 06 2010 03:40:26 index-store-state
  306 Jun 10 2010 02:34:03 index-kaha
  290 Jun 10 2010 02:34:03 data-kaha-1
71673 Aug 06 2010 03:40:26 data-store-state-1
  0 Jun 10 2010 02:34:03 lock

```

Directory of disk:/activemq-data/localhost/tmp_storage

No files in directory

Directory of disk:/target

```

4096 Aug 04 2010 23:15:20 logs/

```

Directory of disk:/target/logs

```

 0 Aug 04 2010 23:15:20 ProfilerPDP.log

```

EXEC コマンド

```

2208 Aug 05 2010 11:54:26 ProfilerSensor.log

Directory of disk:/lost+found

No files in directory

Usage for disk: filesystem
      8076189696 bytes total used
      6371618816 bytes free
      15234142208 bytes available

/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
delete	Cisco CDA サーバ上のファイルを削除します。

exit

Cisco CDA サーバからログアウトさせることで、アクティブな端末セッションを終了するか、コンフィギュレーション モードから 1 つ上のモード レベルに移行するには、EXEC モードで **exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

EXEC モードで **exit** コマンドを使用して、(Cisco CDA サーバをログアウトすることで) アクティブなセッションを終了するか、コンフィギュレーション モードから上のモードに移行します。

例

```

/admin# exit
/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
end	コンフィギュレーション モードを終了します。
exit	コンフィギュレーション モードまたは EXEC モードを終了します。
Ctrl-z	コンフィギュレーション モードを終了します。

forceout

ユーザを Cisco CDA サーバからログアウトさせることで、アクティブな端末セッションを強制的に終了させるには、EXEC モードで **forceout** コマンドを使用します。

forceout *username*

構文の説明	forceout	特定のシステム ユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトするコマンド。
	<i>username</i>	ユーザの名前。31 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン EXEC モードで **forceout** コマンドを使用して、ユーザのアクティブなセッションを強制的に終了させます。

例

```
/admin# forceout user1
/admin#
```

halt

システムをシャットダウンしてシステムの電源を切るには、EXEC モードで **halt** コマンドを使用します。

halt

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン **halt** コマンドを実行する前に、Cisco CDA が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作を実行中でないことを確認します。Cisco CDA がこれらのいずれかの操作を行っている間に **halt** コマンドを実行すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with halt?
```

```
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with halt?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、システムを強制終了するには **Yes** と入力し、強制終了をキャンセルするには **No** と入力します。

halt コマンドを使用したとき、または表示された警告メッセージに対して **Yes** と入力したときにプロセスが実行されていない場合には、Cisco CDA から次のオプションに対する応答を要求されます。

```
Do you want to save the current configuration?
```

Yes と入力して、既存の Cisco ACS コンフィギュレーションを保存します。Cisco CDA に次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

例

```
/admin# halt
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
reload	システムをリブートします。

help

Cisco CDA サーバの対話型のヘルプ システムについての説明を表示するには、EXEC モードで **help** コマンドを使用します。

help

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

すべてのコンフィギュレーション モード。

使用上のガイドライン

help コマンドを実行すると、状況依存ヘルプ システムの簡単な説明が表示されます。

- 特定のコマンド モードで使用可能なすべてのコマンドを一覧表示するには、システム プロンプトで疑問符 (?) を入力します。
- 特定の文字列で始まるコマンド リストを取得するには、省略形のコマンド エントリの直後に、疑問符 (?) を入力します。このヘルプの形式は、入力された省略形で始まるキーワードまたは引数だけ一覧表示するので、ワード ヘルプと呼ばれます。
- コマンドに関連付けられているキーワードおよび引数を一覧表示するには、コマンドラインで、キーワードまたは引数の代わりに疑問符 (?) を入力します。このヘルプの形式は、すでに入力したコマンドやキーワード、および引数に基づいて適用されるキーワードまたは引数を一覧表示するので、コマンド構文ヘルプと呼ばれます。

例

```

/admin# help
Help may be requested at any point in a command by entering
a question mark '?'. If nothing matches, the help list will
be empty and you must backup until entering a '?' shows the
available options.
Two styles of help are provided:
1. Full help is available when you are ready to enter a
   command argument (e.g. 'show?') and describes each possible
   argument.
2. Partial help is provided when an abbreviated argument is entered
   and you want to know what arguments match the input
   (e.g. 'show pr?'.)

/admin#

```

mkdir

Cisco CDA サーバに新しいディレクトリを作成するには、EXEC モードで **mkdir** コマンドを使用します。

```
mkdir directory-name [disk:/path]
```

構文の説明

mkdir	ディレクトリを作成するコマンド。
directory-name	作成するディレクトリの名前。80 文字までの英数字で指定します。
disk:/path	ディレクトリ名には <i>disk:/path</i> の形式を使用します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

ディレクトリ名には *disk:/path* の形式を使用します。そうでなければ、*disk:/path* の指定が必要であることを示すエラーが表示されます。

例

```

/admin# mkdir disk:/test
/admin# dir

Directory of disk:/

 4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
 4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
 4096 May 06 2010 13:42:53 target/
 4096 May 07 2010 12:26:04 test/

Usage for disk: filesystem
      181067776 bytes total used
      19084521472 bytes free
      20314165248 bytes available

/admin#

```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>dir</code>	CDA サーバ上のファイルを一覧表示します。
	<code>rmdir</code>	既存のディレクトリを削除します。

nslookup

Cisco CDA サーバにあるリモート システムのホスト名を検索するには、EXEC モードで **nslookup** コマンドを使用します。

nslookup word

構文の説明	コマンド	説明
	<code>nslookup</code>	リモート システムの IP アドレスまたはホスト名を検索するコマンド。
	<code>word</code>	リモート システムの IPv4 アドレスまたはホスト名。64 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 1

```
/admin# nslookup 1.2.3.4
Trying "4.3.2.1.in-addr.arpa"
Received 127 bytes from 171.70.168.183#53 in 1 ms
Trying "4.3.2.1.in-addr.arpa"
Host 4.3.2.1.in-addr.arpa. not found: 3(NXDOMAIN)
Received 127 bytes from 171.70.168.183#53 in 1 ms

/admin#
```

例 2

```
/admin# nslookup 209.165.200.225
Trying "225.200.165.209.in-addr.arpa"
;; ->HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 65283
;; flags: qr rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 2, ADDITIONAL: 0

;; QUESTION SECTION:
;225.200.165.209.in-addr.arpa. IN PTR

;; ANSWER SECTION:
225.200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN PTR 209-165-200-225.got.net.

;; AUTHORITY SECTION:
200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN NS ns1.got.net.
200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN NS ns2.got.net.

Received 119 bytes from 171.70.168.183#53 in 28 ms
```

```
/admin#
```

patch install

patch install コマンドは、CLI から **patch install** コマンドを実行する特定のノード上でのみアプリケーションのパッチ バンドルをインストールします。

アプリケーションのパッチ バンドルをインストールするには、EXEC モードで **patch** コマンドを使用します。

patch install patch-bundle repository

構文の説明

patch	このコマンドは、システム パッチまたはアプリケーション パッチをインストールします。
install	アプリケーションの特定のパッチ バンドルをインストールするコマンド。
patch-bundle	パッチ バンドル ファイル名。255 文字までの英数字で指定します。
repository	リポジトリ名。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションの特定のパッチ バンドルをインストールします。

既存のパッチより古いバージョンのパッチをインストールしようとする、次のエラー メッセージが表示されます。

```
% Patch to be installed is an older version than currently installed version.
```



(注)

このパッチ インストール コマンドを使用してパッチをインストールする前に、そのパッチに付随するリリース ノートでパッチのインストール手順を参照する必要があります。リリース ノートには、そのパッチをインストールするために更新された重要な手順が含まれており、それに従う必要があります。

例 1

```
/admin# patch install cda-patchbundle-1.0.0.010.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the ADE-OS running configuration to startup successfully
Initiating Application Patch installation...
```

```
Patch successfully installed
/admin#
```

例 2

```
/admin# patch install cda-patchbundle-1.0.0.010.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? no
Initiating Application Patch installation...
```

```
Patch successfully installed
/admin#
```

例 3

```

/admin# patch install cda-patchbundle-1.0.0.010.i386.tar.gz disk
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application Patch installation...
% Patch to be installed is an older version than currently installed version.
/admin#

```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>patch remove</code>	アプリケーションの特定のパッチ バンドル バージョンを削除するコマンド。
	<code>show version</code>	現在ロードされているソフトウェアのバージョンに関する情報とともに、ハードウェア、およびデバイス情報を表示します。

patch remove

アプリケーションの特定のパッチ バンドル バージョンを削除するには、EXEC モードで **patch** コマンドを使用します。

patch remove *word word*

構文の説明	構文	説明
	<code>patch</code>	このコマンドは、システム パッチまたはアプリケーション パッチをインストールします。
	<code>remove</code>	アプリケーションの特定のパッチ バンドル バージョンを削除するコマンド。
	<code>word</code>	パッチを削除するアプリケーションの名前。255 文字までの英数字で指定します。
	<code>word</code>	削除するパッチのバージョン番号。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン アプリケーションの特定のパッチ バンドルを削除します。
インストールされていないパッチを削除しようとすると、次のエラー メッセージが表示されます。
% Patch is not installed

**(注)**

このパッチ削除コマンドを使用してパッチをロールバックする前に、そのパッチに付随するリリースノートでパッチのロールバック手順を参照する必要があります。リリース ノートには、以前インストールされたパッチをロールバックするために更新された重要な手順が含まれており、それに従う必要があります。

例

例 1

```
/admin# patch remove cda 3
Continue with application patch uninstall? [y/n] y
Application patch successfully uninstalled
/admin#
```

例 2

```
/admin# patch remove cda 3
Continue with application patch uninstall? [y/n] y
% Patch is not installed
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
patch install	アプリケーションの特定のパッチ バンドルをインストールするコマンド。
show version	現在ロードされているソフトウェアのバージョンに関する情報とともに、ハードウェア、およびデバイス情報を表示します。

ping

リモート システムとの基本的な IPv4 ネットワークの接続性を診断するには、EXEC モードで **ping** コマンドを使用します。

```
ping {ip-address | hostname} [df df] [packetsize packetsize] [pingcount pingcount]
```

構文の説明

ping	リモート IP アドレスを ping するコマンド。
<i>ip-address</i>	PING を実行するシステムの IP アドレス。32 文字までの英数字で指定します。
<i>hostname</i>	PING を実行するシステムのホスト名。32 文字までの英数字で指定します。
df	パケット フラグメンテーションに関する指定。
<i>df</i>	パケット フラグメンテーションを禁止する場合は、値を 1 に設定し、ローカルにパケットをフラグメントする場合は 2 、DF を設定しない場合は 3 に設定します。
packetsize	PING パケットのサイズ。
<i>packetsize</i>	PING パケットのサイズを 0 ~ 65507 の範囲で指定します。
pingcount	PING エコー要求の数。
<i>pingcount</i>	PING エコー要求の数を 1 ~ 10 の範囲で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

ping コマンドは、エコー要求パケットをアドレスに送信して、応答を待ちます。PING 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

例

```
/admin# ping 172.16.0.1 df 2 packetsize 10 pingcount 2
PING 172.16.0.1 (172.16.0.1) 10(38) bytes of data.
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=0 ttl=40 time=306 ms
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=1 ttl=40 time=300 ms

--- 172.16.0.1 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1001ms
rtt min/avg/max/mdev = 300.302/303.557/306.812/3.255 ms, pipe 2
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping6	リモート IPv6 アドレスを ping します。

ping6

IPv4 の **ping** と同様に、EXEC モードで IPv6 の **ping6** コマンドを使用します。

```
ping6 {ip-address | hostname} [GigabitEthernet 0-3][packetsize packetsize] [pingcount pingcount]
```

構文の説明

ping	リモート IPv6 アドレスを ping するコマンド。
<i>ip-address</i>	PING を実行するシステムの IP アドレス。64 文字までの英数字で指定します。
<i>hostname</i>	PING を実行するシステムのホスト名。64 文字までの英数字で指定します。
GigabitEthernet	イーサネット インターフェイス。
<i>0-3</i>	イーサネット インターフェイスを選択します。
packetsize	PING パケットのサイズ。
<i>packetsize</i>	PING パケットのサイズを 0 ～ 65507 の範囲で指定します。
pingcount	PING エコー要求の数。
<i>pingcount</i>	PING エコー要求の数を 1 ～ 10 の範囲で指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

IPv6 の **ping6** コマンドは、エコー要求パケットをアドレスに送信して、応答を待ちます。PING 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

IPv6 の **ping6** コマンドは、既存の IPv4 の **ping** コマンドに類似しています。ping6 コマンドは、IPv4 ping のフラグメンテーション (IPv4 の **df**) オプションをサポートしませんが、オプションでインターフェイスを指定できます。インターフェイス オプションは、主にインターフェイスに固有のリンクローカルアドレスで ping する場合に有効です。packetize オプションと pingcount オプションは、IPv4 コマンドの場合と同様に機能します。

例**例 1**

```
/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05(3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 56 data bytes
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.599 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.150 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.070 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=3 ttl=64 time=0.065 ms

--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
4 packets transmitted, 4 received, 0% packet loss, time 3118ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.065/0.221/0.599/0.220 ms, pipe 2

/admin#
```

例 2

```
/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 GigabitEthernet 0 packetize 10 pingcount 2
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05(3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 10 data bytes
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.073 ms
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.073 ms

--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1040ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.073/0.073/0.073/0.000 ms, pipe 2

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping	リモート IP アドレスを ping します。

reload

Cisco CDA オペレーティング システムをリロードするには、EXEC モードで **reload** コマンドを使用します。

reload**構文の説明**

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

reload コマンドはシステムをリブートします。コンフィギュレーション情報をファイルに入力し、CLI で実行コンフィギュレーションを永続的なスタートアップ コンフィギュレーションに保存し、Web 管理ユーザ インターフェイス セッションのすべての設定を保存した後、**reload** コマンドを使用します。

reload コマンドを実行する前に、Cisco CDA が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作を実行中でないことを確認します。Cisco CDA がこれらのいずれかの操作を行っている間に **reload** コマンドを実行すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with reload?
```

```
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with reload?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、システムを強制終了するには **Yes** と入力し、強制終了をキャンセルするには **No** と入力します。

reload コマンドを使用したとき、または表示された警告メッセージに対して **Yes** と入力したときにプロセスが実行されていない場合には、Cisco CDA から次のオプションに対する応答を要求されます。

```
Do you want to save the current configuration?
```

Yes と入力して、既存の Cisco ACS コンフィギュレーションを保存します。Cisco CDA に次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

例

```
/admin# reload
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Continue with reboot? [y/n] y
```

```
Broadcast message from root (pts/0) (Fri Aug 7 13:26:46 2010):
```

```
The system is going down for reboot NOW!
```

```
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
halt	システムをディセーブルにします。

restore

前回のバックアップを復元するには、EXEC モードで **restore** コマンドを使用します。復元操作では、Cisco CDA だけでなく、Cisco ADE OS 関連のデータも復元されます。Cisco CDA のみのアプリケーションデータの以前のバックアップを復元するには、EXEC モードで **application** コマンドを **restore** コマンドに追加します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

次のコマンドを使用して、Cisco CDA アプリケーションおよび Cisco ADE OS に関連するデータを復元します。

```
restore filename repository repository-name
```

次のコマンドを使用して、Cisco CDA アプリケーションにのみ関連するデータを復元します。

```
restore filename repository repository-name application application-name
```

構文の説明	<code>restore</code>	システムを復元するコマンド。
	<code>filename</code>	リポジトリに存在するバックアップ ファイルのファイル名。120 文字までの英数字で指定します。 (注) ファイル名の後に、 <code>tar.gpg</code> という拡張子を付ける必要があります (<code>myfile.tar.gpg</code> など)。
	<code>repository</code>	<code>repository</code> コマンド。
	<code>repository-name</code>	バックアップから復元するリポジトリの名前。
	<code>application</code>	<code>application</code> コマンド。
	<code>application name</code>	復元するアプリケーション データの名前。 255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン Cisco CDA で復元コマンドを使用すると、Cisco CDA サーバが自動的に再起動します。
データの復元時には、暗号キーはオプションです。暗号キーを提供していない以前のバックアップをサポートする場合、暗号キーなしで **restore** コマンドを使用できます。

例

```
/admin# restore mybackup-100818-1502.tar.gpg repository myrepository application cda
Restore may require a restart of application services. Continue? (yes/no) [yes] ? yes
Initiating restore. Please wait...
CDA application restore is in progress.
This process could take several minutes. Please wait...
Stopping CDA Watchdog...
Stopping CDA Application Server...
Stopping AD Context Manager...
Stopping AD Context Observer...
Stopping CDA Logger...
Starting CDA Watchdog...
Starting CDA Application Server...
Starting AD Context Manager...
Starting AD Context Observer...
Starting CDA Logger...
Note: CDA Processes are initializing. Use 'show application status cda'
      CLI to verify all processes are in running state.
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>backup</code>	(Cisco CDA および Cisco ADE OS) バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
	<code>backup-logs</code>	システム ログをバックアップします。
	<code>repository</code>	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
	<code>show repository</code>	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。
	<code>show backup history</code>	システムのバックアップ履歴を表示します。

rmdir

既存のディレクトリを削除するには、EXEC モードで **rmdir** コマンドを使用します。

rmdir *word*

構文の説明	rmdir	既存のディレクトリを削除するコマンド。
	<i>word</i>	ディレクトリ名。80 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```

/admin# mkdir disk:/test
/admin# dir

Directory of disk:/

 4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
 4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
 4096 May 06 2010 13:42:53 target/
 4096 May 07 2010 12:26:04 test/

Usage for disk: filesystem
    181067776 bytes total used
    19084521472 bytes free
    20314165248 bytes available

/admin#

/admin# rmdir disk:/test
/admin# dir

Directory of disk:/

 4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
 4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
 4096 May 06 2010 13:42:53 target/

Usage for disk: filesystem
    181063680 bytes total used
    19084525568 bytes free
    20314165248 bytes available

/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>dir</code>	Cisco CDA サーバ上のファイルを一覧表示します。
<code>mkdir</code>	新しいディレクトリを作成します。

show

実行システムの情報を表示するには、EXEC モードで **show** コマンドを使用します。**show** コマンドは、Cisco CDA 設定の表示に使用する、最も便利なコマンドの 1 つです。

表 4-3 のコマンドを使用する場合は、たとえば **show application status** のように、**show** コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。一部の **show** コマンドでは、**show application version** のように、キーワードの後に引数または変数を指定する必要があります。

すべての Cisco CDA **show** コマンドの詳細については、「[show コマンド](#)」(P.4-49) を参照してください。

`show keyword`

構文の説明

表 4-3 では、**show** コマンドの要約を示します。

表 4-3 show コマンドの要約

コマンド ¹	説明
application (キーワードが必要) ²	インストールされているアプリケーションに関する情報 (ステータス情報やバージョン情報など) を表示します。
backup (キーワードが必要)	バックアップに関する情報を表示します。
cdp (キーワードが必要)	有効な Cisco Discovery Protocol インターフェイスに関する情報を表示します。
clock	システムクロックの曜日、日付、時刻、時間帯、および年を表示します。
cpu	CPU 情報を表示します。
disks	ディスクのファイルシステム情報を表示します。
interface	Cisco ADE OS に設定されているすべてのインターフェイスについての統計情報を表示します。
logging (キーワードが必要)	システムのロギング情報を表示します。
logins (キーワードが必要)	システムのログイン履歴を表示します。
memory	実行中のすべてのプロセスによるメモリ使用量を表示します。
ntp	ネットワーク タイム プロトコル (NTP) のステータスを表示します。
ports	アクティブなポートを受信するすべてのプロセスを表示します。
process	Cisco CDA サーバのアクティブなプロセスに関する情報を表示します。
repository (キーワードが必要)	特定リポジトリのファイルの内容を表示します。

表 4-3 show コマンドの要約 (続き)

コマンド ¹	説明
restore (キーワードが必要)	Cisco CDA サーバの復元履歴を表示します。
running-config	Cisco CDA サーバの現在の実行コンフィギュレーション ファイルの内容を表示します。
startup-config	Cisco CDA サーバのスタートアップコンフィギュレーションの内容を表示します。
tech-support	問題を報告するときに、TAC に提供可能なシステム情報およびコンフィギュレーション情報を表示します。
terminal	現在の端末回線の端末コンフィギュレーションパラメータの設定に関する情報を表示します。
timezone	Cisco CDA サーバの時間帯を表示します。
timezones	Cisco CDA サーバで使用可能なすべての時間帯を表示します。
udi	Cisco CDA の Unique Device Identifier (UDI) に関する情報を表示します。
uptime	ログインしているシステムが起動してからの稼働時間を表示します。
users	現在ログインしているユーザの情報を表示します。
version	インストールされているアプリケーションのバージョンに関する情報を表示します。

1. この表にあるコマンドを使用する場合は、たとえば **show application** のように、**show** コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。
2. 一部の **show** コマンドでは、**show application version** のように、キーワードの後に引数または変数を指定する必要があります。この **show** コマンドは、システムにインストールされているアプリケーションのバージョンを表示します ([「show application」 \(P.4-49\)](#) を参照)。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

すべての **show** コマンドは、機能するために少なくとも 1 つのキーワードが必要です。

例

```
/admin# show application
<name>          <Description>
CDA              Cisco Context Directory Agent
/admin#
```

ssh

リモート システムと暗号化されたセッションを開始するには、EXEC モードで **ssh** コマンドを使用します。

```
ssh [ip-address | hostname] username port [number] version [1 | 2] delete hostkey word
```

構文の説明

<code>ssh</code>	リモート システムとの暗号化されたセッションを開始するコマンド。
<code>ip-address</code>	リモート システムの IP アドレス。64 文字までの英数字で指定します。
<code>hostname</code>	リモート システムのホスト名。64 文字までの英数字で指定します。
<code>username</code>	SSH を介してログインしているユーザのユーザ名。
<code>port [number]</code>	(任意) リモート ホストのポート番号を示します。0 ~ 65,535 の範囲で指定します。デフォルトは 22 です。
<code>version [1 2]</code>	(任意) バージョン番号を示します。デフォルトは 2 です。
<code>delete hostkey</code>	特定のホストの SSH フィンガープリントを削除します。
<code>word</code>	リモート システムの IPv4 アドレスまたはホスト名。64 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

無効です。

コマンド モード

EXEC (Admin または Operator)

使用上のガイドライン

`ssh` コマンドは、システムから別のリモート システムまたはサーバに、安全な暗号化された接続を確立します。この接続は、接続が暗号化される点を除いて Telnet のアウトバウンド接続と同様の機能を提供します。SSH クライアントは、認証および暗号化により、非セキュアなネットワーク上でセキュアな通信ができます。

例

例 1

```
/admin# ssh cda1 admin
admin@cda1's password:
Last login: Wed Jul 11 05:53:20 2008 from cda.cisco.com

cda1/admin#
```

例 2

```
/admin# ssh delete host cda
/admin#
```

tech

選択したネットワーク インターフェイス上のトラフィックをダンプするには、EXEC モードで `tech` コマンドを使用します。

```
tech dumptcp <0-3> count <package count>
```

構文の説明

<code>tech</code>	TAC コマンド。
<code>dumptcp</code>	TCP パッケージをコンソールにダンプするコマンド。
<code>0-3</code>	ギガビット イーサネット インターフェイスの番号 (0 から 3)。
<code>count</code>	最大パッケージ カウントを指定します。デフォルトは連続 (無制限) です。
<code>package count</code>	1 ~ 10000 をサポートします。

EXEC コマンド

デフォルト 無効です。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン tech dump tcp 出力に不良 UDP チェックサム警告が表示されても問題ない場合があります。tech dump tcp コマンドは、イーサネット マイクロプロセッサを通して終了する前に、発信パケットを検査します。現在の大部分のイーサネット チップは、発信パケットのチェックサムを計算します。したがって、オペレーティング システム ソフトウェア スタックは計算を行いません。そのため、発信パケットに不良 UDP チェックサムが宣言されるのは一般的によく見られることです。

例

```
cd-pos-dev17/admin# tech dump tcp 0 count 30
Invoking tcpdump. Press Control-C to interrupt.
tcpdump: listening on eth0, link-type EN10MB (Ethernet), capture size 96 bytes
10:27:32.923319 IP (tos 0x10, ttl 64, id 1377, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6),
length: 92) 10.77.122.201.22 > 10.77.204.132.3142: P 165
9025089:1659025141(52) ack 793752673 win 12144
10:27:32.923613 IP (tos 0x10, ttl 64, id 1378, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6),
length: 156) 10.77.122.201.22 > 10.77.204.132.3142: P 52
:168(116) ack 1 win 12144
10:27:32.940203 IP (tos 0x0, ttl 55, id 12075, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.43876:
 13150 NXDomain* q: AAAA? cda-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[[domain]
10:27:32.952693 IP (tos 0x0, ttl 119, id 52324, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6),
length: 40) 10.77.204.132.3142 > 10.77.122.201.22: ., ck
sum 0x4ed3 (correct), 1:1(0) ack 168 win 64192
10:27:33.201646 IP (tos 0x0, ttl 64, id 39209, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 63) 10.77.122.201.50340 > 72.163.128.140.53: [b
ad udp cksum b8a2!] 49140+ AAAA? cda-201.cisco.com. (35)
10:27:33.226571 IP (tos 0x0, ttl 55, id 26568, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.50340:
 49140 NXDomain* q: AAAA? cda-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[[domain]
10:27:33.415173 IP (tos 0x0, ttl 64, id 39423, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 63) 10.77.122.201.56578 > 72.163.128.140.53: [b
ad udp cksum 8854!] 62918+ AAAA? cda-201.cisco.com. (35)
10:27:33.453429 IP (tos 0x0, ttl 55, id 12076, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.56578:
 62918 NXDomain* q: AAAA? cda-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[[domain]
10:27:33.579551 arp who-has 10.77.122.120 tell 10.77.122.250
10:27:33.741303 IP (tos 0x0, ttl 128, id 21433, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 306) 0.0.0.0.68 > 255.255.255.255.67: BOOTP/DHC
P, Request from e4:1f:13:77:13:34, length: 278, xid:0x1377f72b, flags: [Broadcast]
(0x8000)
  Client Ethernet Address: e4:1f:13:77:13:34 [|bootp]
10:27:33.788119 IP (tos 0x0, ttl 64, id 39796, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 63) 10.77.122.201.43779 > 72.163.128.140.53: [b
ad udp cksum 2ffc!] 32798+ AAAA? cda-201.cisco.com. (35)
10:27:33.812961 IP (tos 0x0, ttl 55, id 26569, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.43779:
 32798 NXDomain* q: AAAA? cda-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[[domain]
10:27:34.003769 IP (tos 0x0, ttl 64, id 40011, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 63) 10.77.122.201.23267 > 72.163.128.140.53: [b
ad udp cksum 2e85!] 18240+ AAAA? cda-201.cisco.com. (35)
10:27:34.038636 IP (tos 0x0, ttl 55, id 26570, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.23267:
 18240 NXDomain* q: AAAA? cda-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[[domain]
10:27:34.579054 arp who-has 10.77.122.120 tell 10.77.122.250
10:27:34.927369 arp who-has 10.77.122.42 tell 10.77.122.40
```



```

10:27:35.727151 IP (tos 0x0, ttl 255, id 64860, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 317) 0.0.0.0.68 > 255.255.255.255.67: BOOTP/D
HCP, Request from 3c:df:1e:58:0f:c0, length: 289, xid:0x161504, flags: [Broadcast]
(0x8000)
      Client Ethernet Address: 3c:df:1e:58:0f:c0 [|bootp]
10:27:36.190658 CDPv2, ttl: 180s, checksum: 692 (unverified), length 384
      Device-ID (0x01), length: 12 bytes: 'hyd04-lab-SW' [|cdp]
30 packets captured
30 packets received by filter
0 packets dropped by kernel
cda-201/admin#

```

telnet

Telnet をサポートしているホストにログインするには、Operator (ユーザ) または EXEC モードで **telnet** コマンドを使用します。

telnet [*ip-address* | *hostname*] *port number*

構文の説明	
telnet	Telnet をサポートするホストにログインするコマンド。
<i>ip-address</i>	リモート システムの IP アドレス。64 文字までの英数字で指定します。
<i>hostname</i>	リモート システムのホスト名。64 文字までの英数字で指定します。
<i>port number</i>	(任意) リモート ホストのポート番号を示します。0 ~ 65,535 の範囲で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード Operator
EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```

/admin# telnet 172.16.0.11 port 23
cda.cisco.com login: admin
password:
Last login: Mon Jul 2 08:45:24 on ttyS0
/admin#

```

terminal length

現在のセッションでの現在の端末画面の行数を設定するには、EXEC モードで **terminal length** コマンドを使用します。

terminal length *integer*

EXEC コマンド

構文の説明	<code>terminal</code>	端末行パラメータを設定するコマンド。
	<code>length</code>	現在のセッションに対する現在の端末画面上の行数を設定するコマンド。
	<code>integer</code>	画面の行数。0 ～ 511 行の範囲で指定します。0 を指定すると、出力画面間での一時停止がディセーブルになります。

デフォルト 24 行

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン システムは `length` の値を使用して、複数画面の出力時に一時停止するタイミングを決定します。

例

```
/admin# terminal length 0
/admin#
```

terminal session-timeout

すべてのセッションに対する無活動タイムアウトを設定するには、EXEC モードで **terminal session-timeout** コマンドを使用します。

terminal session-timeout *minutes*

構文の説明	<code>terminal</code>	端末行パラメータを設定するコマンド。
	<code>session-timeout</code>	すべてのセッションの無活動タイムアウトを設定するコマンド。
	<code>minutes</code>	無活動タイムアウトの分数を設定します。有効な範囲は、0 ～ 525,600 です。ゼロ (0) を指定するとタイムアウトがディセーブルになります。

デフォルト 30 分

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **terminal session-timeout** コマンドをゼロに設定すると、タイムアウトが設定されません。

例

```
/admin# terminal session-timeout 40
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	terminal session-welcome	システムにログインするすべてのユーザに表示される初期メッセージをシステムに設定します。

terminal session-welcome

システムにログインするすべてのユーザに表示される初期メッセージをシステムに設定するには、EXEC モードで **terminal session-welcome** コマンドを使用します。

terminal session-welcome *string*

構文の説明	terminal	session-welcome	<i>string</i>
	端末行パラメータを設定するコマンド。	システムにログインするすべてのユーザに表示される初期メッセージをシステムに設定するコマンド。	初期メッセージ。2,048 までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン 2,048 文字までのメッセージを指定します。

例

```
/admin# terminal session-welcome Welcome
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	terminal session-timeout	すべてのセッションに対して、無活動タイムアウトを設定します。

terminal terminal-type

現在のセッションの現在の回線に接続される端末のタイプを指定するには、EXEC モードで **terminal terminal-type** コマンドを使用します。

terminal terminal-type *type*

構文の説明	terminal	terminal-type	<i>type</i>
	端末行パラメータを設定するコマンド。	接続される端末のタイプを指定するコマンド。デフォルトの端末タイプは VT100 です。	端末の名前とタイプを定義し、そのサービスのタイプを提供するホストによる端末ネゴシエーションを許可します。80 文字までの英数字で指定します。

デフォルト VT100

EXEC コマンド

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン デフォルトの VT100 と異なる場合、端末タイプを示します。

例 /admin# **terminal terminal-type vt220**
/admin#

traceroute

パケットが宛先のアドレスに送信されるときに実際に通るルートを検出するには、EXEC モードで **traceroute** コマンドを使用します。

traceroute [*ip-address* | *hostname*]

構文の説明		
	traceroute	宛先アドレスへのパケットのルートを検出するコマンド。
	<i>ip-address</i>	リモート システムの IP アドレス。32 文字までの英数字で指定します。
	<i>hostname</i>	リモート システムのホスト名。32 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 /admin# **traceroute 172.16.0.11**
traceroute to 172.16.0.11 (172.16.0.11), 30 hops max, 38 byte packets
1 172.16.0.11 0.067 ms 0.036 ms 0.032 ms

/admin#

undebug

デバッグ機能をディセーブルにするには、EXEC モードで **undebug** コマンドを使用します。

undebug {**all** | **application** | **backup-restore** | **cdp** | **config** | **copy** | **icmp** | **locks** | **logging** | **snmp** | **system** | **transfer** | **user** | **utils**}

構文の説明		
	undebug	Cisco CDA サーバのさまざまなエラーの識別をディセーブルにするコマンド。
	all	すべてのデバッグをディセーブルにします。

application	<p>アプリケーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのアプリケーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>install</i> : アプリケーションのインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>operation</i> : アプリケーション操作のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>uninstall</i> : アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。
backup-restore	<p>ファイルをバックアップおよび復元します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>backup</i> : バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>backup-logs</i> : バックアップおよび復元で、バックアップ ログのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>history</i> : バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>restore</i> : バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をディセーブルにします。
cdp	<p>Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーション デバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>config</i> : Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーション デバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>infra</i> : Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャ デバッグ出力をディセーブルにします。
config	<p>コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i> : すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>backup</i> : バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>clock</i> : クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>infra</i> : コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>kron</i> : コマンド スケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>network</i> : ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>repository</i> : リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>service</i> : サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。

EXEC コマンド

copy	コピー コマンド。
icmp	ICMP エコー応答のコンフィギュレーション。 <i>all</i> : ICMP エコー応答コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。
locks	リソース ロッキング。 <ul style="list-style-type: none"> <i>all</i> : すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。 <i>file</i> : ファイル ロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。
logging	ロギング コンフィギュレーション ファイル。 <i>all</i> : ロギング コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。
snmp	SNMP コンフィギュレーション ファイル。 <i>all</i> : SNMP コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。
system	システム ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> <i>all</i> : すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をディセーブルにします。 <i>id</i> : システム ID のデバッグ出力をディセーブルにします。 <i>info</i> : システム情報のデバッグ出力をディセーブルにします。 <i>init</i> : システムの初期化のデバッグ出力をディセーブルにします。
transfer	ファイル転送。
user	ユーザ管理。 <ul style="list-style-type: none"> <i>all</i> : すべてのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。 <i>password-policy</i> : パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。
utils	ユーティリティ コンフィギュレーション ファイル。 <i>all</i> : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# undebg all
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>debug</code>	コマンド状況のエラーまたはイベントを表示します。

write

Cisco CDA サーバのコンフィギュレーションをコピー、表示、または消去するには、適切な引数を指定して EXEC モードで **write** コマンドを使用します。

write {erase | memory | terminal}

構文の説明

<code>write</code>	実行システムの情報を書き込むためのコマンド。
<code>erase</code>	スタートアップ コンフィギュレーションを消去します。このオプションは、Cisco CDA では無効になっています。
<code>memory</code>	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
<code>terminal</code>	実行コンフィギュレーションをコンソールにコピーします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

Cisco CDA では、`erase` オプションでこの `write` コマンドを使用することは無効になっています。
`erase` オプションで `write` コマンドを使用すると、Cisco CDA に次のエラー メッセージが表示されます。

```
% Warning: 'write erase' functionality has been disabled by application: cda
```

例

例 1

```
/admin# write memory
Generating configuration...
/admin#
```

例 2

```
/admin# write terminal

Generating configuration...
!
hostname cda
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 10.201.2.121 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
interface GigabitEthernet 1
 shutdown
!
```

```
interface GigabitEthernet 2
  shutdown
!
interface GigabitEthernet 3
  shutdown
!
ip name-server 171.68.226.120
!
ip default-gateway 10.201.2.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server clock.cisco.com
!
username admin password hash $1$6yQQaFXM$UBgbp7ggD1bG3kpExywwZ0 role admin
!
service sshd
!
repository myrepository
  url disk:
  user admin password hash 2b50ca94445f240f491e077b5f49fa0375942f38
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!

/admin#
```


show コマンド

この項では、各 **show** コマンドを一覧表示し、使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および出力例を示します。

表 4-4 に、この項で説明する EXEC モードの **show** コマンドの一覧を示します。

表 4-4 EXEC show コマンドの一覧

<ul style="list-style-type: none"> • show application • show backup history • show cdp • show clock • show cpu • show disks • show icmp-status • show interface • show inventory • show logging 	<ul style="list-style-type: none"> • show logins • show memory • show ntp • show ports • show process • show repository • show restore • show running-config • show startup-config 	<ul style="list-style-type: none"> • show tech-support • show terminal • show timezone • show timezones • show udi • show uptime • show users • show version
---	---	--

show application

システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示するには、EXEC モードで **show application** コマンドを使用します。

show application [status | version [*app_name*]]

構文の説明

show application	Cisco CDA のアプリケーション情報を表示するコマンド。
status	インストールされているアプリケーションのステータスを表示します。
version	インストールされているアプリケーション (Cisco CDA) のアプリケーションバージョンを表示します。
<i>app_name</i>	インストールされているアプリケーションの名前。

	<p>出力修飾子変数</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数 (表 4-5 を参照)。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数 (表 4-5 を参照)。
--	---

表 4-5 Count または Last の出力修飾子変数

	<p>出力修飾子変数</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	---

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 1

```

/admin# show application
<name>          <Description>
cda             Cisco Context Directory Agent

/admin#

```

例 2

```
/admin# show application version cda
```

```
Cisco Context Directory Agent
-----
Version       : 1.0.0.11
Build Date    : Sun Apr  8 14:04:41 2012
Install Date  : Sun Apr  8 14:11:45 2012

/admin#
```

例 3

```
/admin# show application status cda
```

```
CDA application server is running PID:2840

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application install	アプリケーションを設定します。
application install	アプリケーション バンドルをインストールします。
application reset-config	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
application reset-passwd	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	アプリケーション バンドルをアップグレードします。

show backup history

システムのバックアップ履歴を表示するには、EXEC モードで **show backup history** コマンドを使用します。

show backup history**構文の説明**

show backup	Cisco CDA のバックアップ情報を表示するコマンド。
history	システム上のすべてのバックアップに関する履歴情報を表示します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

show コマンド

例

例 1

```
/admin# show backup history
Wed Aug 18 12:55:21 UTC 2010: backup logs logs-0718.tar.gz to repository fileserver007:
success
Wed Aug 18 12:55:53 UTC 2010: backup full-0718.tar.gpg to repository fileserver007:
success
/admin#
```

例 2

```
/admin# show backup history
backup history is empty
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
backup	(Cisco CDA および Cisco ADE OS) バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップファイルを表示します。

show cdp

イネーブルになっている Cisco Discovery Protocol インターフェイスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show cdp** コマンドを使用します。

```
show cdp {all | neighbors}
```

構文の説明

show cdp	Cisco Discovery Protocol の show コマンドを表示するためのコマンド。
all	有効なすべての Cisco Discovery Protocol インターフェイスを表示します。
neighbors	Cisco Discovery Protocol のネイバーを表示します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

例 1

```
/admin# show cdp all
CDP protocol is enabled...
    broadcasting interval is every 60 seconds.
    time-to-live of cdp packets is 180 seconds.
```

```

      CDP is enabled on port GigabitEthernet0.
/adminin#

```

例 2

```

/adminin# show cdp neighbors
CDP Neighbor : pmbu-ibf-sw-ins
  Local Interface   : GigabitEthernet0
  Device Type       : E-24TDWS-C3750
  Port              : GigabitEthernet1/0/17
  Address           : 192.168.100.254

/adminin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
cdp holdtime	受信デバイスがルータから受け取った Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでに、それを保持する時間を指定します。
cdp run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。
cdp timer	Cisco CDA サーバが Cisco Discovery Protocol アップデートを送信する頻度を指定します。

show clock

システム ソフトウェアの時計の曜日、月、日付、時間、時間帯、および年を表示するには、EXEC モードで **show clock** コマンドを使用します。

show clock**構文の説明**

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```

/adminin# show clock
Tue May 8 08:33:50 IDT 2012
/adminin#

```



(注) 上の例の **show clock** の出力には、協定世界時 (UTC) またはグリニッジ標準時 (GMT)、英国時間、ズールー時間が含まれています (サンプルの時間帯については、A-84 ページと A-85 ページにある [4-13](#)、[4-14](#)、[4-15](#) の各表を参照)。

関連コマンド

コマンド	説明
clock	表示用のシステム クロックを設定します。

show cpu

CPU 情報を表示するには、EXEC モードで **show cpu** コマンドを使用します。

show cpu [*statistics*] [] []

構文の説明

show cpu	CPU 情報を表示するコマンド。
statistics	CPU 統計情報を表示します。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数 (表 4-6 を参照)。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数 (表 4-6 を参照)。

表 4-6 Count または Last の出力修飾子変数

	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	--

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 1

```
/admin# show cpu

processor : 0
model      : Intel(R) Core(TM)2 CPU           6400 @ 2.13GHz
speed(MHz): 1596.000
cache size: 2048 KB

processor : 1
model      : Intel(R) Core(TM)2 CPU           6400 @ 2.13GHz
speed(MHz): 1596.000
cache size: 2048 KB

/admin#
```

例 2

```
/admin# show cpu statistics
user time:          265175
kernel time:        166835
idle time:          5356204
i/o wait time:      162676
irq time:           4055

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show disks	すべてのディスクのシステム情報を表示します。
show memory	使用されているシステムメモリの量をシステムプロセス別に表示します。

show disks

ディスク ファイル システム情報を表示するには、EXEC モードで **show disks** コマンドを使用します。

```
show disks [] []
```

構文の説明

show disks	ディスクとファイル システム情報を表示するコマンド。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数 (表 4-7 を参照)。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数 (表 4-7 を参照)。

表 4-7 Count または Last の出力修飾子変数

	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	--

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

show disks コマンドは、ディスク ファイル システムを備えたプラットフォームでのみサポートされません。

例

```
/admin# show disks
```

```
temp. space 2% used (36460 of 1984044)
disk: 2% used (208816 of 14877060)
```



```
Internal filesystems:
  all internal filesystems have sufficient free space

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cpu	CPU 情報を表示します。
show memory	使用されているシステム メモリの量をシステム プロセス別に表示します。

show icmp-status

インターネット制御メッセージプロトコルのエコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するには、EXEC モードで **show icmp_status** コマンドを使用します。

```
show icmp_status {> file ||}
```

構文の説明

show icmp_status	インターネット制御メッセージプロトコルのエコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するコマンド。
>	出力の方向。
file	標準出力 (stdout) をリダイレクトするファイルの名前。
	出力修飾子コマンド <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> – : 出力修飾子コマンド (表 4-8 を参照)。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 <ul style="list-style-type: none"> – : 出力修飾子コマンド (表 4-8 を参照)。

表 4-8 Count または Last の出力修飾子変数

	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	--

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 1

```
/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned on
/admin#
```

例 2

```
/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned off
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	icmp echo	インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) のエコー要求を設定します。

show interface

IP に設定されているインターフェイスのユーザビリティ ステータスを表示するには、EXEC モードで **show interface** コマンドを使用します。

```
show interface [GigabitEthernet] |
```

構文の説明	show interface	インターフェイス情報を表示するコマンド。
	GigabitEthernet	ギガビット イーサネット インターフェイスを表示します。<0-3> を入力します。
		出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン **show interface GigabitEthernet 0** 出力のインターフェイスには、3 つの IPv6 アドレスがあります。最初のインターネット アドレス (3ffe で始まるアドレス) は、ステートレス自動設定を使用して取得されます。そのためには、IPv6 ルート アドバタイズメントを、そのサブネットでイネーブルにする必要があります。次のアドレス (fe80 で始まるアドレス) は、外部ホストからのスコープを持たないリンク ローカル アドレスです。IPv6 自動設定または DHCPv6 設定に関係なく、リンク ローカル アドレスは常に表示されます。最後のアドレス (2001 で始まるアドレス) は、IPv6 DHCP サーバから取得された結果です。

例 1

```
/admin# show interface
eth0    Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:6A:88:C4
        inet addr:172.23.90.113  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
        inet6 addr: fe80::20c:29ff:fe6a:88c4/64 Scope:Link
        UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
        RX packets:48536 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
        TX packets:14152 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
        collisions:0 txqueuelen:1000
        RX bytes:6507290 (6.2 MiB)  TX bytes:12443568 (11.8 MiB)
        Interrupt:59 Base address:0x2000

lo      Link encap:Local Loopback
        inet addr:127.0.0.1  Mask:255.0.0.0
        inet6 addr: ::1/128 Scope:Host
        UP LOOPBACK RUNNING  MTU:16436  Metric:1
        RX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
        TX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
        collisions:0 txqueuelen:0
        RX bytes:649425800 (619.3 MiB)  TX bytes:649425800 (619.3 MiB)

sit0    Link encap:IPv6-in-IPv4
```

show コマンド

```

NOARP MTU:1480 Metric:1
RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
collisions:0 txqueuelen:0
RX bytes:0 (0.0 b) TX bytes:0 (0.0 b)

/adminin#

```

例 2

```

/adminin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116 Bcast:172.23.90.255 Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
          inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64 Scope:Global
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
          RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:10699801 (10.2 MiB) TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000

/adminin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
interface	インターフェイス タイプを設定して、インターフェイス コンフィギュレーション サブモードに入ります。
ipv6 address autoconfig	インターフェイスで IPv6 ステータス自動設定をイネーブルにします。
ipv6 address dhcp	インターフェイスで IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。

show inventory

Cisco CDA アプライアンス モデルやシリアル番号など、ハードウェア インベントリに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show inventory** コマンドを使用します。

```
show inventory |
```

構文の説明

show inventory	ハードウェア インベントリ情報を表示するコマンド。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# show inventory

NAME: "CSACS-1121-K9      chassis", DESCR: "CSACS-1121-K9      chassis"
PID: CSACS-1121-K9      , VID: V01 , SN: LAB11122278
Total RAM Memory: 4017680 kB
CPU Core Count: 2
CPU 0: Model Info: Intel(R) Core(TM)2 CPU          6400 @ 2.13GHz
CPU 1: Model Info: Intel(R) Core(TM)2 CPU          6400 @ 2.13GHz
Hard Disk Count(*): 2
Disk 0: Device Name: /dev/sda
Disk 0: Capacity: 250.00 GB
Disk 0: Geometry: 255 heads 63 sectors/track 30401 cylinders
Disk 1: Device Name: /dev/sdb
Disk 1: Capacity: 250.00 GB
Disk 1: Geometry: 255 heads 63 sectors/track 30401 cylinders
NIC Count: 2
NIC 0: Device Name: eth0
NIC 0: HW Address: 00:15:17:29:68:A2
NIC 0: Driver Descr: Intel(R) PRO/1000 Network Driver
NIC 1: Device Name: eth1
NIC 1: HW Address: 00:15:17:29:68:A3
NIC 1: Driver Descr: Intel(R) PRO/1000 Network Driver

(*) Hard Disk Count may be Logical.

/admin#
```

show logging

システム ロギング (syslog) の状態および標準のシステム ロギング バッファの内容を表示するには、EXEC モードで **show logging** コマンドを使用します。

```
show logging {application [application-name]} {internal} {system} |
```

構文の説明	
show logging	システム ロギング情報を表示するコマンド。
application	アプリケーション ログを表示します。 <i>application-name</i> : アプリケーション名。255 文字までの英数字で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> – <i>tail</i> : Tail システムの syslog メッセージ。 – <i>count</i> : Tail の最終カウント メッセージ数。0 ~ 4,294,967,295 の範囲で指定します。 : 出力修飾子変数 (下記を参照)。

internal	syslog のコンフィギュレーションを表示します。
system	システムの syslog を表示します。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン このコマンドは、syslog エラーおよびイベント ログिंगの状態を表示します。この状態には、ホストアドレス、ログिंगがイネーブルになっているログिंगの宛先（コンソール、モニタ、バッファ、またはホスト）が含まれます。

例 1

```
/admin# show logging system
ADEOS Platform log:
-----

Apr 18 11:03:57 localhost debugd[1756]: [2170]: config:network: main.c[252] [setup]: Setup
is complete
Apr 18 14:04:13 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[245]
[setup]: Install initiated with bundle - cda.tar.gz, r
epo - SystemDefaultPkgRepos
Apr 18 14:04:13 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[259]
[setup]: Stage area - /storeddata/Installing/.13347470
53
Apr 18 14:04:13 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[263]
[setup]: Getting bundle to local machine
Apr 18 14:04:13 localhost debugd[1756]: [3005]: transfer: cars_xfer.c[58] [setup]: local
copy in of cda.tar.gz requested
Apr 18 14:04:15 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[272]
[setup]: Got bundle at - /storeddata/Installing/.13347
47053/cda.tar.gz
Apr 18 14:04:15 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[282]
[setup]: Unbundling package cda.tar.gz
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[294]
[setup]: Unbundling done. Verifying input parameters..
.
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[316]
[setup]: Manifest file is at - /storeddata/Installing/
.1334747053/manifest.xml
```

```

Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[326]
[setup]: Manifest file appname - cda
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[389]
[setup]: Manifest file pkgtype - CARS
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[401]
[setup]: Verify dependency list -
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[413]
[setup]: Verify app license -
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[423]
[setup]: Verify app RPM's
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[431]
[setup]: No of RPM's - 1
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[442]
[setup]: Disk - 50
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[325]
[setup]: Disk requested = 51200 KB
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[345]
[setup]: More disk found Free = 211595264, req_disk = 51200
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[453]
[setup]: Mem requested by app - 100
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[369]
[setup]: Mem requested = 102400
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[384]
[setup]: Found MemFree = MemFree:      1284664 kB
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[390]
[setup]: Found MemFree value = 1284664
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[393]
[setup]: Found Inactive = Inactive:      1361456 kB
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[399]
[setup]: Found Inactive MemFree value = 1361456
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[409]
[setup]: Sufficient mem found
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[415]
[setup]: Done checking memory...
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[475]
[setup]: Verifying RPM's...
--More--

```

(press Spacebar to continue)

```

/admin#

```

例 2

```

/admin# show logging internal

log server:      localhost
Global loglevel: 6
Status:          Enabled
/admin#

```

例 3

```

/admin# show logging internal

log server:      localhost
Global loglevel: 6
Status:          Disabled
/admin#

```

show logins

システム ログインの状態を表示するには、EXEC モードで **show logins** コマンドを使用します。

show コマンド

show logins cli

構文の説明	show logins	システム ロギング履歴を表示するコマンド。
	cli	cli ログイン履歴を一覧表示します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン cli キーワードを指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

例

```

/admin# show logins cli
admin pts/1 10.77.203.182 Tue May 8 08:32 still logged in
admin pts/1 10.77.203.182 Mon May 7 14:05 - 14:58 (00:53)
admin pts/1 10.77.203.182 Mon May 7 12:23 - 13:29 (01:06)
root pts/0 64.103.124.254 Mon Apr 23 11:54 still logged in
root ttyS0 Thu Apr 19 17:57 still logged in
admin ttyS0 Thu Apr 19 17:57 - 17:57 (00:00)
admin ttyS0 Thu Apr 19 17:23 - 17:56 (00:32)
admin ttyS0 Thu Apr 19 18:28 - 15:59 (-2:-29)
admin ttyS0 Wed Apr 18 20:43 - 21:16 (00:32)
admin ttyS0 Wed Apr 18 14:58 - 15:28 (00:30)

wtmp begins Wed Apr 18 13:59:32 2012

/admin#

```

show memory

すべての実行プロセスのメモリ使用量を表示するには、EXEC モードで **show memory** コマンドを使用します。

show memory

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。


```

例 /admin# show memory
total memory: 1035164 kB
free memory: 27128 kB
cached: 358888 kB
swap-cached: 142164 kB

/admin#

```

show ntp

NTP 関連付けのステータスを表示するには、EXEC モードで **show ntp** コマンドを使用します。

show ntp

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

```

例 : 1
/admin# show ntp
Primary NTP : cd-acis-ntp.cisco.com

synchronised to NTP server (10.56.60.29) at stratum 3
time correct to within 64 ms
polling server every 1024 s

      remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
 127.127.1.0         .LOCL.           10 l   5   64  377   0.000   0.000   0.001
*10.56.60.29        64.103.34.15    2 u  98 1024 377   0.001   0.205   0.054

Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.
/admin#

```

```

例 : 2
/admin# show ntp
% no NTP servers configured
/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>ntp</code>	最大 3 つの NTP サーバの NTP コンフィギュレーションを設定します。
<code>ntp server</code>	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアのクロックを同期化します。

show ports

アクティブなポートで受信するすべてのプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで `show ports` コマンドを使用します。

`show ports [] []`

構文の説明

<code>show ports</code>	Cisco CDA のオープン ポートで受信するすべてのプロセスを表示するコマンド。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数 (表 4-9 を参照)。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数 (表 4-9 を参照)。

表 4-9 Count または Last の出力修飾子変数

	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	--

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン **show ports** コマンドを実行する場合、ポートがアクティブなセッションに関連付けられている必要があります。

例

```
/admin# show ports
Process : portmap (2560)
      tcp: 0.0.0.0:111
      udp: 0.0.0.0:111
Process : sshd (3312)
      tcp: 0.0.0.0:22, :::22
Process : rpc.statd (2600)
      tcp: 0.0.0.0:662
      udp: 0.0.0.0:656, 0.0.0.0:659
Process : java (18838)
      tcp: ::ffff:127.0.0.1:8005, :::8009, :::80, :::443, :::8092
Process : java (18811)
      tcp: :::54826, :::8091
Process : java (18849)
      tcp: :::8020, :::8090
      udp: :::1812, :::1813, :::1645, :::1646, :::50672
Process : java (18787)
      tcp: :::8093
Process : ntpd (4213)
      udp: 192.168.100.156:123, 10.56.14.156:123, 127.0.0.1:123, 0.0.0.0:123,
fe80::215:17ff:fe29:123, fd00:1234:5678:abcd:123, 2001:420:44ff:1
4:21:123, fe80::215:17ff:fe29:123, ::1:123, :::123
/admin#
```

show process

アクティブなプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show process** コマンドを使用します。

show process |

構文の説明

show process	システム プロセスを表示するコマンド。
	(任意) 出力修飾子変数 : <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。

show コマンド

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 プロセスのフィールドの説明は、表 4-10 を参照してください。

```

/adminin# show process
USER      PID      TIME TT      COMMAND
root      1 00:00:00 ?      init
root      2 00:00:00 ?      migration/0
root      3 00:00:00 ?      ksoftirqd/0
root      4 00:00:00 ?      watchdog/0
root      5 00:00:00 ?      migration/1
root      6 00:00:01 ?      ksoftirqd/1
root      7 00:00:00 ?      watchdog/1
root      8 00:00:00 ?      events/0
root      9 00:00:00 ?      events/1
root     10 00:00:00 ?      khelper
root     11 00:00:00 ?      kthread
root     15 00:00:00 ?      kblockd/0
root     16 00:00:01 ?      kblockd/1
root     17 00:00:00 ?      kacpid
root    113 00:00:00 ?      cqueue/0
root    114 00:00:00 ?      cqueue/1
root    117 00:00:00 ?      khubd
root    119 00:00:00 ?      kseriod
root    186 00:00:00 ?      pdflush
root    187 00:00:02 ?      pdflush
root    188 00:00:02 ?      kswapd0
root    189 00:00:00 ?      aio/0
root    190 00:00:00 ?      aio/1
root    351 00:00:00 ?      kpsmoused
root    382 00:00:00 ?      ata/0
root    383 00:00:00 ?      ata/1
root    384 00:00:00 ?      ata_aux
root    388 00:00:00 ?      scsi_eh_0
root    389 00:00:00 ?      scsi_eh_1
root    396 00:00:00 ?      kstriped
root    409 00:00:36 ?      kjournald
root    436 00:00:00 ?      kauditd

```

```

root      469 00:00:00 ?          udevd
root      1011 00:00:00 ?          kedac
--More--
/admin#

```

表 4-10 show process のフィールドの説明

フィールド	説明
USER	ログインしたユーザ
PID	プロセス ID
TIME	コマンドが最後に使用された時刻
TT	プロセスを制御している端末
COMMAND	使用されたプロセスまたはコマンドのタイプ

show repository

リポジトリのファイルの内容を表示するには、EXEC モードで **show repository** コマンドを使用します。

```
show repository repository-name
```

構文の説明

show repository	リポジトリの内容を表示するコマンド。
repository-name	内容を表示するリポジトリの名前。30 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```

/admin# show repository myrepository
back1.tar.gpg
back2.tar.gpg
/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
backup	(Cisco CDA および Cisco ADE OS) バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。

show restore

復元履歴を表示するには、EXEC モードで **show restore** コマンドを使用します。

show restore {history}

構文の説明

show restore	復元情報を表示するコマンド。
history	復元履歴を表示します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

例 1

```
/admin# show restore history
```

```
/admin#
```

例 2

```
/admin# show restore history
```

```
restore history is empty
```

```
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
backup	(Cisco CDA および Cisco ADE OS) バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。

show running-config

現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

show running-config

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト `show running-config` コマンドは、すべてのコンフィギュレーション情報を表示します。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```

/admin# show running-config
Generating configuration...
!
hostname pmbu-ibf-pip06
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 192.168.100.156 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
interface GigabitEthernet 1
 ip address 10.56.14.156 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 192.168.100.100 10.56.60.150
!
ip default-gateway 10.56.14.1
!
ip route 192.168.209.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
ip route 192.180.209.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
ip route 192.168.218.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
ip route 192.168.204.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
!
clock timezone Asia/Jerusalem
!
ntp server cd-acis-ntp.cisco.com
!
username admin password hash $1$00jG7EQh$gDjDJK1SZWx5ImaUEqZA01 role admin
!
service sshd
!
repository rp
 url ftp://10.56.61.75/ACS_AUTO_VMS/OLD-ACS.5.0.FCS/
 user anonymous password hash 37f90f7eb86fb8e00895b133c6de3278ff545c54
repository tftp
 url tftp://192.168.100.153
!
password-policy
 lower-case-required
 upper-case-required
 digit-required
 no-username
 disable-cisco-passwords
 min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180

```

show コマンド

```

cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!
/admin#

```

関連コマンド	コマンド	説明
	configure	コンフィギュレーション モードに入ります。
	show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

show startup-config

スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show startup-config** コマンドを使用します。

show startup-config

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

show startup-config コマンドは、すべてのスタートアップ コンフィギュレーション情報を表示します。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```

/admin# show startup-config
!
hostname pmbu-ibf-pip06
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 192.168.100.156 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
interface GigabitEthernet 1
 ip address 10.56.14.156 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 192.168.100.100 10.56.60.150
!
ip default-gateway 10.56.14.1
!
ip route 192.168.209.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
ip route 192.180.209.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
ip route 192.168.218.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
ip route 192.168.204.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1

```



```

!
clock timezone Asia/Jerusalem
!
ntp server cd-acis-ntp.cisco.com
!
username admin password hash $1$00jG7EQh$gDjDJK1SZWx5ImaUEqZA01 role admin
!
service sshd
!
repository rp
  url ftp://10.56.61.75/ACS_AUTO_VMS/OLD-ACS.5.0.FCS/
  user anonymous password hash 37f90f7eb86fb8e00895b133c6de3278ff545c54
repository tftp
  url tftp://192.168.100.153
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!
/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
configure	コンフィギュレーション モードに入ります。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

show tech-support

電子メールなどのテクニカル サポート情報を表示するには、EXEC モードで **show tech-support** コマンドを使用します。

show tech-support file [word]

構文の説明

<code>show tech-support</code>	テクニカル サポート情報を表示するコマンド。
<code>file</code>	テクニカル サポート データをファイルとしてローカル ディスクに保存します。
<code>word</code>	保存するファイル名。80 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

パスワードやその他のセキュリティ情報は、出力には表示されません。

show コマンド

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン

show tech-support コマンドは、トラブルシューティングの目的で、Cisco CDA サーバに関する大量の情報を収集するのに役立ちます。問題を報告するときに、テクニカル サポートの担当者へ出力を提供します。

例

```
/admin# show tech-support

#####
Application Deployment Engine(ADE) - 2.0.2.057
Technical Support Debug Info follows...
#####

*****
Checking dmidecode Serial Number(s)
*****
None
VMware-56 4d 14 cb 54 3d 44 5d-49 ee c4 ad a5 6a 88 c4

*****
Displaying System Uptime...
*****
12:54:34 up 18:37, 1 user, load average: 0.14, 0.13, 0.12

*****
Display Memory Usage (KB)
*****
                total      used      free      shared    buffers    cached
Mem:           1035164    1006180     28984         0       10784     345464
-/+ buffers/cache:    649932     385232
Swap:          2040244     572700    1467544

*****
Displaying Processes(ax --forest)...
*****
  PID TTY          STAT       TIME COMMAND
    1 ?           Ss          0:02  init [3]
    2 ?           S<          0:00  [migration/0]
    3 ?           SN          0:00  [ksoftirqd/0]
    4 ?           S<          0:00  [watchdog/0]
    5 ?           S<          0:00  [events/0]
--More--
(press Spacebar to continue)

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイスのユーザビリティ ステータスを表示します。
show process	アクティブなプロセスに関する情報を表示します。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーションの内容を表示します。

show terminal

端末設定パラメータの設定に関する情報を取得するには、EXEC モードで **show terminal** コマンドを使用します。

show terminal

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
/admin# show terminal
TTY: /dev/pts/0 Type: "vt100"
Length: 27 lines, Width: 80 columns
Session Timeout: 30 minutes
/admin#
```

表 4-11 では、**show terminal** の出力のフィールドについて説明します。

表 4-11 show terminal のフィールドの説明

フィールド	説明
TTY: /dev/pts/0	端末のタイプに対する標準の出力を表示します。
Type: "vt100"	現在使用されている端末のタイプ。
Length: 24 lines	端末ディスプレイの長さ。
Width: 80 columns	端末ディスプレイの文字カラムの幅。
Session Timeout: 30 minutes	セッションで、接続を終了するまでの時間（単位：分）。

show timezone

システムに設定されている時間帯を表示するには、EXEC モードで **show timezone** コマンドを使用します。

show timezone

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
/admin# show timezone
UTC
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clock timezone	システムの時間帯を設定します。
show timezones	システムで使用可能な時間帯を表示します。

show timezones

選択可能な時間帯のリストを取得するには、EXEC モードで **show timezones** コマンドを使用します。

show timezones

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

CDA サーバで使用可能な時間帯の例については、「[clock timezone](#)」(P.4-85) を参照してください。

例

```
/admin# show timezones
Africa/Blantyre
```

```

Africa/Dar_es_Salaam
Africa/Dakar
Africa/Asmara
Africa/Timbuktu
Africa/Maputo
Africa/Accra
Africa/Kigali
Africa/Tunis
Africa/Nouakchott
Africa/Ouagadougou
Africa/Windhoek
Africa/Douala
Africa/Johannesburg
Africa/Luanda
Africa/Lagos
Africa/Djibouti
Africa/Khartoum
Africa/Monrovia
Africa/Bujumbura
Africa/Porto-Novo
Africa/Malabo
Africa/Ceuta
Africa/Banjul
Africa/Cairo
Africa/Mogadishu
Africa/Brazzaville
Africa/Kampala
Africa/Sao_Tome
Africa/Algiers
Africa/Addis_Ababa
Africa/Ndjamena
Africa/Gaborone
Africa/Bamako
Africa/Freetown
--More--
(press Spacebar to continue)

/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show timezone	システムに設定されている時間帯を表示します。
clock timezone	システムの時間帯を設定します。

show udi

Cisco CDA アプライアンスの UDI に関する情報を表示するには、EXEC モードで **show udi** コマンドを使用します。

show udi

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例**例 1**

```
/admin# show udi

SPID: CSACS-1121-K9
VPID: V01
Serial: LAB11122278

/admin#
```

VMware サーバで **show udi** コマンドを実行すると、次の出力が表示されます。

例 2

```
/admin# show udi

SPID: CDA-VM-K9
VPID: V01
Serial: 5C79C84ML9H

/admin#
```

show uptime

Cisco CDA サーバにログインしてから経過した時間を表示するには、EXEC モードで **show uptime** コマンドを使用します。

show uptime |

構文の説明	show uptime	Cisco CDA サーバにログインしていた期間を表示するコマンド。
		<p>出力修飾子変数</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# show uptime
3 day(s), 18:55:02
/admin#
```

show users

Cisco CDA サーバにログインしているユーザの一覧を表示するには、EXEC モードで **show users** コマンドを使用します。

show users

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# show users
```

■ コンフィギュレーション コマンド

```

USERNAME          ROLE   HOST          TTY   LOGIN DATETIME
admin             Admin 10.77.137.60  pts/0  Fri Aug 6 09:45:47 2010

/admin#

```

show version

システムのソフトウェア バージョンに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show version** コマンドを使用します。

show version

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

EXEC

使用上のガイドライン

このコマンドは、Cisco CDA サーバ上で実行する Cisco ADE-OS ソフトウェアのバージョン情報と、Cisco CDA のバージョンを表示します。

例

```

/admin# show version

Cisco Application Deployment Engine OS Release: 2.0
ADE-OS Build Version: 2.0.2.057
ADE-OS System Architecture: i386

Copyright (c) 2005-2011 by Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.
Hostname: pmbu-ibf-pip06

Version information of installed applications
-----

Cisco Context Directory Agent
-----
Version      : 3.0.0.11
Build Date   : Tue Apr 10 13:05:05 2012
Install Date : Mon May 7 12:06:23 2012

/admin#

```

コンフィギュレーション コマンド

この項では、各コンフィギュレーション コマンドを一覧表示し、使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および出力例を示します。

コンフィギュレーション コマンドには、**interface** や **repository** などのコマンドがあります。



(注)

一部のコンフィギュレーション コマンドでは、コマンド コンフィギュレーションを完了するために、コンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

コンフィギュレーション モードにアクセスするには、EXEC モードで **configure** コマンドを使用する必要があります。

表 4-12 に、この項で説明するコンフィギュレーション コマンドの一覧を示します。

表 4-12 コンフィギュレーション コマンドの一覧

• backup-staging-url	• kron occurrence
• cdp holdtime	• kron policy-list
• cdp run	• logging
• cdp timer	• ntp
• clock timezone	• ntp authenticate
• do	• ntp authentication-key
• end	• ntp server
• exit	• ntp trusted-key
• hostname	• password-policy
• icmp echo	• repository
• interface	• service
• ipv6 address autoconfig	• shutdown
• ipv6 address dhcp	• snmp-server community
• ip address	• snmp-server contact
• ip default-gateway	• snmp-server host
• ip domain-name	• snmp-server location
• ip name-server	• username
• ip route	

backup-staging-url

バックアップ操作および復元操作が、バックアップ ファイルをパッケージ化およびアンパッケージ化するためのステー징領域として使用するネットワーク ファイル システム (NFS) の場所を設定できるようにするには、コンフィギュレーション モードで **backup-staging-url** コマンドを使用します。

backup-staging-url *word*

構文の説明	backup-staging-url	ネットワーク ファイル システム (NFS) の場所をバックアップ操作および復元操作が使用するステー징領域として設定するためのコマンド。
	<i>word</i>	ステー징領域の NFS URL。2048 文字までの英数字で指定します。 nfs://server:path ¹ という形式を使用します。

1. server はサーバ名です。path は /subdir/subsubdir を指します。server の後にコロン (:) が必要です。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン URL は NFS のみです。コマンドの形式は、**backup-staging-url nfs://server:path** です。



警告

使用している NFS のセキュリティを設定して、Cisco CDA サーバの IP アドレスからのみディレクトリにアクセスできるようにしてください。

例

```
/admin(config)# backup-staging-url nfs://loc-filer02a:/vol/local1/private1/jdoe
/admin(config)#
```

cdp holdtime

受信デバイスが Cisco CDA サーバからの Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでにそれを保持する時間を指定するには、コンフィギュレーション モードで **cdp holdtime** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp holdtime *seconds*

構文の説明	cdp	Cisco Discovery Protocol のパラメータを設定するコマンド。
	holdtime	指定された Cisco Discovery Protocol の保持時間。
	<i>seconds</i>	ホールド タイムを秒数で指定します。値は 10 ~ 255 秒です。

デフォルト 180 秒

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン Cisco Discovery Protocol パケットを、存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。保持時間を経過すると、受信デバイスは Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を破棄します。

cdp holdtime コマンドに指定できる引数は 1 つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

例

```
/admin(config)# cdp holdtime 60
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cdp timer	Cisco CDA サーバが Cisco Discovery Protocol アップデートを送信する頻度を指定します。
	cdp run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。

cdp run

Cisco Discovery Protocol をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **cdp run** コマンドを使用します。Cisco Discovery Protocol をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp run [*GigabitEthernet*]

構文の説明	cdp	Cisco Discovery Protocol のパラメータを設定するコマンド。
	run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルまたはディセーブルにするコマンド。
	GigabitEthernet	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにする GigabitEthernet インターフェイスを指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン このコマンドでは、1 つのオプションの引数（インターフェイス名）を指定します。オプションのインターフェイス名が指定されない場合、コマンドはすべてのインターフェイスで Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。



(注) このコマンドのデフォルトでは、すでに行われているインターフェイスで動作します。インターフェイスを起動する場合は、まず Cisco Discovery Protocol を停止してから、再度 Cisco Discovery Protocol を起動してください。

■ コンフィギュレーションコマンド

例

```
/admin(config)# cdp run GigabitEthernet 0
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cdp holdtime	受信デバイスが Cisco CDA サーバから受け取った Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでにそれを保持する時間を指定します。
	cdp timer	Cisco CDA サーバが Cisco Discovery Protocol アップデートを送信する頻度を指定します。

cdp timer

Cisco CDA サーバが Cisco Discovery Protocol アップデートを送信する頻度を指定するには、コンフィギュレーションモードで **cdp timer** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp timer *seconds*

構文の説明	コマンド	説明
	<code>cdp</code>	Cisco Discovery Protocol のパラメータを設定するコマンド。
	<code>timer</code>	Cisco Discovery Protocol の時間間隔を更新するコマンド。
	<code>seconds</code>	Cisco CDA サーバが Cisco Discovery Protocol アップデートを送信する頻度を秒数で指定します。値は 5 ~ 254 秒です。

デフォルト 60 秒

コマンドモード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン Cisco Discovery Protocol パケットを、存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。保持時間を経過すると、受信デバイスは Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を破棄します。

cdp timer コマンドに指定できる引数は 1 つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

例

```
/admin(config)# cdp timer 60
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cdp holdtime	受信デバイスが Cisco CDA サーバから受け取った Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでに、それを保持する時間を指定します。
	cdp run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。

clock timezone

時間帯を設定するには、コンフィギュレーションモードで **clock timezone** コマンドを実行します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock timezone *timezone*

構文の説明		
	clock	時間帯を設定するコマンド。
	timezone	システムの時間帯を設定するコマンド。
	<i>timezone</i>	標準時に表示する時間帯の名前。64 文字までの英数字で指定します。

デフォルト UTC

コマンドモード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン システムの内部的には、UTC での時刻が保持されます。具体的な時間帯がわからない場合、地域、国、および都市を入力できます（システムに入力するサンプルの時間帯については、[4-13](#)、[4-14](#)、[4-15](#) の各表を参照）。

表 4-13 共通の時間帯

略語または名前	時間帯名
欧州	
GMT、GMT0、GMT-0、GMT+0、UTC、Greenwich、Universal、Zulu	グリニッジ標準時 (UTC)
GB	英国
GB-Eire、Eire	アイルランド
WET	西ヨーロッパ時間 (UTC)
CET	中央ヨーロッパ標準時 (UTC + 1 時間)
EET	東ヨーロッパ時間 (UTC + 2 時間)
米国およびカナダ	
EST、EST5EDT	東部標準時 (UTC - 5 時間)
CST、CST6CDT	中央標準時 (UTC - 6 時間)
MST、MST7MDT	山岳部標準時 (UTC - 7 時間)
PST、PST8PDT	太平洋標準時 (UTC - 8 時間)
HST	ハワイ標準時 (UTC - 10 時間)

表 4-14 オーストラリアの時間帯

オーストラリア ¹			
ACT ²	Adelaide	Brisbane	Broken_Hill
Canberra	Currie	Darwin	Hobart
Lord_Howe	Lindeman	LHI ³	Melbourne
North	NSW ⁴	Perth	Queensland
South	Sydney	Tasmania	Victoria
West	Yancowinna		

1. 国と都市をスラッシュ (/) で区切って入力します (例: Australia/Currie)。
2. ACT = Australian Capital Territory (オーストラリア首都特別地域)
3. LHI = Lord Howe Island (ロードハウ諸島)
4. NSW = New South Wales (ニューサウスウェールズ)

表 4-15 アジアの時間帯

アジア ¹			
Aden ²	Almaty	Amman	Anadyr
Aqtau	Aqtobe	Ashgabat	Ashkhabad
Baghdad	Bahrain	Baku	Bangkok
Beirut	Bishkek	Brunei	Calcutta
Choibalsan	Chongqing	Columbo	Damascus
Dhakar	Dili	Dubai	Dushanbe
Gaza	Harbin	Hong_Kong	Hovd
Irkutsk	Istanbul	Jakarta	Jayapura
Jerusalem	Kabul	Kamchatka	Karachi
Kashgar	Katmandu	Kuala_Lumpur	Kuching
Kuwait	Krasnoyarsk		

1. アジアの時間帯には、東アジア、南アジア、東南アジア、西アジア、および中央アジアがあります。
2. 地域と都市または国をスラッシュ (/) で区切って入力します。たとえば、Asia/Aden。



(注)

これ以外にも使用可能な時間帯がいくつかあります。Cisco CDA サーバで、**show timezones** コマンドを入力すると、CDA サーバで使用可能なすべての時間帯が表示されます。該当地域の時間帯に最も適した時間帯を選択します。



警告

インストール後に Cisco CDA アプライアンス上の時間帯を変更すると、そのノードの Cisco CDA アプリケーションが使用できなくなります。ただし、インストール中に初期セットアップウィザードによって時間帯を指定するよう要求された場合は、希望する時間帯 (デフォルトの UTC) を設定できます。

```

例 /admin(config)# clock timezone EST
    /admin(config)# exit
    /admin# show timezone
    EST
    /admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show timezones	システムで使用可能な時間帯を一覧表示します。
show timezone	システムに現在設定されている時間帯を表示します。

do

コンフィギュレーション モードまたはコンフィギュレーション サブモードから EXEC レベルのコマンドを実行するには、コンフィギュレーション モードで **do** コマンドを使用します。

do arguments

構文の説明

do	コンフィギュレーション モードまたはいずれかのコンフィギュレーション サブモードから EXEC レベルのコマンドを実行するための EXEC コマンド。
<i>arguments</i>	EXEC レベルのコマンドを実行する EXEC コマンド (表 4-16 を参照)。

表 4-16 Do コマンドのコマンド オプション

コマンド	説明
application configure	特定のアプリケーションを設定します。
application install	特定のアプリケーションをインストールします。
application remove	特定のアプリケーションを削除します。
application start	特定のアプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	特定のアプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	特定のアプリケーションをアップグレードします。
backup	(Cisco CDA および Cisco ADE OS) バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
backup-logs	Cisco CDA サーバに記録されているすべてのログを、リモートの場所にバックアップします。
clock	Cisco CDA サーバのシステム クロックを設定します。
configure	コンフィギュレーション モードに入ります。
copy	コピー元からコピー先に任意のファイルをコピーします。
debug	さまざまなコマンド状況 (たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など) で、エラーまたはイベントを表示します。
delete	Cisco CDA サーバ上のファイルを削除します。
dir	Cisco CDA サーバ上のファイルを一覧表示します。

表 4-16 Do コマンドのコマンド オプション (続き)

コマンド	説明
forceout	特定の Cisco CDA ノード ユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトします。
halt	Cisco CDA サーバをディセーブルにするか、シャットダウンします。
mkdir	新しいディレクトリを作成します。
nslookup	リモート システムの IPv4 アドレスまたはホスト名を照会します。
patch	システム パッチまたはアプリケーション パッチをインストールします。
pep	インライン ポスチャ ノードを設定します。
ping	リモート システムでの IPv4 ネットワーク アクティビティを判断します。
ping6	IPv6 リモート システムでの IPv6 ネットワーク アクティビティを判断します。
reload	Cisco CDA サーバをリブートします。
restore	復元を実行して、リポジトリからバックアップを取得します。
rmdir	既存のディレクトリを削除します。
show	Cisco CDA サーバに関する情報を表示します。
ssh	リモート システムとの暗号化されたセッションを開始します。
tech	Technical Assistance Center (TAC) コマンドを提供します。
telnet	リモート システムへの Telnet 接続を確立します。
terminal length	端末回線のパラメータを設定します。
terminal session-timeout	すべてのターミナルセッションに対して、無活動タイムアウトを設定します。
terminal session-welcome	すべてのターミナルセッションで表示される初期メッセージをシステムに設定します。
terminal terminal-type	現在のセッションの現在の回線に接続されている端末のタイプを指定します。
traceroute	リモート IP アドレスのルートをトレースします。
undebug	さまざまなコマンド状況 (たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など) で、 debug コマンドの出力 (エラーまたはイベントの表示) をディセーブルにします。
write	セットアップ ユーティリティを強制的に実行してネットワーク コンフィギュレーションを要求するスタートアップ コンフィギュレーションを消去し、スタートアップ コンフィギュレーションに実行コンフィギュレーションをコピーし、コンソール上に実行コンフィギュレーションを表示します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション モードまたはコンフィギュレーション サブモード

使用上のガイドライン

このコマンドは、サーバの設定中に、EXEC コマンド (**show**、**clear**、**debug** などの各コマンド) を実行する場合に使用します。EXEC コマンドの実行後、システムは使用していたコンフィギュレーションモードに戻ります。

例

```
/admin(config)# do show run
Generating configuration...
!
hostname cda
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone EST
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZzr. role admin
!
service sshd
!
backup-staging-url nfs://loc-filer02a:/vol/local1/private1/jdoe
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
--More--

/admin(config)#
```

end

現在のコンフィギュレーションセッションを終了して EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーションモードで **end** コマンドを使用します。

end

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

■ コンフィギュレーション コマンド

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン このコマンドは、現在のコンフィギュレーション モードやサブモードにかかわらず、EXEC モードに移行します。

このコマンドは、システム設定を終了し、EXEC モードに戻って、検証手順を実行する場合に使用します。

例 /admin (config) # **end**
/admin #

関連コマンド	コマンド	説明
	exit	コンフィギュレーション モードを終了します。
	exit (EXEC)	Cisco CDA サーバからログアウトすることで、アクティブなターミナルセッションを閉じます。

exit

コンフィギュレーション モードを終了して、CLI モード階層で次に高いモードに移行するには、コンフィギュレーション モードで **exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン **exit** コマンドは、Cisco CDA サーバで、現在のコマンド モードを終了して、CLI モード階層で次に高いコマンド モードに移行する場合に使用します。

たとえば、EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーション モードで **exit** コマンドを使用します。コンフィギュレーション サブモードで **exit** コマンドを使用すると、コンフィギュレーション モードに戻ります。最上位の EXEC モードで **exit** コマンドを使用すると、EXEC モードを終了して、Cisco CDA サーバから接続解除されます (**exit** (EXEC) コマンドの説明については、「[exit](#)」(P.4-24) を参照してください)。

例 /admin (config) # **exit**
/admin #

関連コマンド

コマンド	説明
<code>end</code>	コンフィギュレーション モードを終了します。
<code>exit</code> (EXEC)	Cisco CDA サーバからログアウトすることで、アクティブなターミナルセッションを閉じます。

hostname

システムのホスト名を設定するには、コンフィギュレーション モードで **hostname** コマンドを使用します。システムからホスト名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用してシステムをローカルホストにリセットします。

hostname *word*

構文の説明

<code>hostname</code>	ホスト名を設定するコマンド。
<i>word</i>	ホストの名前。2 ~ 64 文字の英数字と下線 (_) で指定します。ホスト名はスペース以外の文字で始める必要があります。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

シングル インスタンス タイプのコマンドである **hostname** は、システムの設定時に一度だけ実行します。ホスト名には 1 つの引数を含める必要があります。引数がない場合、エラーが発生します。

例

```
/admin(config)# hostname cda-1
Changing the hostname or IP may result in undesired side effects,
such as installed application(s) being restarted.
Are you sure you want to proceed? [y/n] y
.
.
.
cda-1/admin#
```

icmp echo

インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) のエコー応答を設定するには、コンフィギュレーション モードで **icmp echo** コマンドを使用します。

icmp echo {*off* | *on*}

構文の説明

<code>icmp</code>	インターネット制御メッセージプロトコルのエコー要求を設定するためのコマンド。
<code>echo</code>	ICMP エコー応答を設定します。

■ コンフィギュレーション コマンド

<i>off</i>	ICMP エコー応答をディセーブルにします。
<i>on</i>	ICMP エコー応答をイネーブルにします。

デフォルト システムは ICMP エコー応答がオン（イネーブル）の場合と同様に動作します。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin(config)# icmp echo off
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show icmp-status	ICMP エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示します。

interface

インターフェイスのタイプを設定してインターフェイス コンフィギュレーション モードに入るには、コンフィギュレーション モードで **interface** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。



(注) VMware 仮想マシンでは、仮想マシンに追加されたネットワーク インターフェイス (NIC) の数に応じて、多数のインターフェイスを使用できる場合があります。

```
interface GigabitEthernet [0 | 1 | 2 | 3]
```

構文の説明	interface	説明
	GigabitEthernet	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
	0 ~ 3	設定するギガビット イーサネット ポートの数。



(注) **interface** コマンドでギガビット インターネット ポートの数を入力すると、**config-GigabitEthernet** コンフィギュレーション サブモードに入ります（この「構文の説明」を参照）。

do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドが実行できます（「 do 」 (P.4-87) を参照）。
end	config-GigabitEthernet サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	config-GigabitEthernet コンフィギュレーション サブモードを終了します。
ip	イーサネット インターフェイスに対して、IP アドレスとネットマスクを設定します（「 ip address 」 (P.4-96) を参照）。

ipv6	DHCPv6 サーバから IPv6 自動設定アドレスと IPv6 アドレスを設定します (「 ipv6 address autoconfig 」 (P.4-93) と 「 ipv6 address dhcp 」 (P.4-95) を参照)。
no	このモードのコマンドを否定します。次の 2 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ip : インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。 shutdown : インターフェイスをシャットダウンします。
shutdown	インターフェイスをシャットダウンします (「 shutdown 」 (P.4-115) を参照)。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

interface コマンドは、さまざまな要件をサポートするサブインターフェイスの設定に使用します。

例

```
/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
/admin(config-GigabitEthernet)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	システム インターフェイスに関する情報を表示します。
ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
shutdown (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします (「 shutdown 」 (P.4-115) を参照)。

ipv6 address autoconfig

IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。

Linux では、IPv6 アドレス自動設定はデフォルトでイネーブルになります。Cisco ADE 2.0 は、イネーブルになっている任意のインターフェイスの実行コンフィギュレーション内の IPv6 アドレス自動設定を示します。

```
interface GigabitEthernet 0
```

構文の説明

interface	インターフェイスを設定するコマンド。
GigabitEthernet	ギガビットイーサネット インターフェイスを設定します。
<0 - 3>	設定するギガビットイーサネット ポートの数。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン IPv6 ステートレス自動設定には、予測可能な IP アドレスを取得するセキュリティ上の欠陥があります。この欠陥は、プライベート拡張によって解決されます。**show** コマンドを使用すると、プライベート拡張機能がイネーブルになっていることを確認できます。

例 1

```
/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# ipv6 address autoconfig
/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# end
/admin#
```

IPv6 自動設定をイネーブルにすると、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
```

show interface GigabitEthernet 0 コマンドを使用すると、インターフェイス設定を表示できます。例 2 では、インターフェイスに 3 つの IPv6 アドレスがあることが示されます。最初のアドレス (3ffe で始まるアドレス) は、ステートレス自動設定を使用して取得されます。ステートレス自動設定を実行するには、そのサブネット上で IPv6 ルート アドバタイズメントをイネーブルにする必要があります。次のアドレス (fe80 で始まるアドレス) は、ホストの外部からのスコープを持たないリンク ローカルアドレスです。IPv6 自動設定か DHCPv6 設定かに関係なく、リンク ローカルアドレスは常に表示されます。最後のアドレス (2001 で始まる) は、IPv6 DHCP サーバから取得されます。

例 2

```
/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
          inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64 Scope:Global
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:10699801 (10.2 MiB)  TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000
```

/admin#
次の RFC は、IPv6 ステートレス自動設定のプライベート拡張を提供します。

<http://www.ietf.org/rfc/rfc3041.txt>

プライベート拡張機能がイネーブルになっていることを確認するには、**show interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。プライベート拡張を持たないアドレスと、プライベート拡張を持つアドレスの 2 つの自動設定アドレスが表示されます。

次の例 3 では、MAC は 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 であり、非 RFC3041 アドレスに MAC が含まれています。また、プライベート拡張アドレスは 302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64 です。

出力は、次のように表示されます。

例 3

```
/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64 Scope:Global
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:60606 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:2771 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:9430102 (8.9 MiB)  TX bytes:466204 (455.2 KiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	システム インターフェイスに関する情報を表示します。
ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
shutdown (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします (「shutdown」 (P.4-115) を参照)。
ipv6 address dhcp	インターフェイスで IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

ipv6 address dhcp

IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。

```
interface GigabitEthernet 0
```

構文の説明

interface	インターフェイスを設定するコマンド。
GigabitEthernet	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
0	設定するギガビット イーサネットのポート番号。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
/admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 address dhcp
/admin(config-GigabitEthernet)# end
/admin#
```

IPv6 DHCPv6 をイネーブルにすると、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address dhcp
!
```



(注)

IPv6 ステートレス自動設定と IPv6 アドレス DHCP は、互いに排他的ではありません。同じインターフェイス上で IPv6 ステートレス自動設定と IPv6 アドレス DHCP の両方を設定できます。特定のインターフェイスで使用されている IPv6 アドレスを表示するには、**show interface** コマンドを使用します。

IPv6 ステートレス自動設定と IPv6 アドレス DHCP の両方をイネーブルにすると、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address dhcp
!
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	システム インターフェイスに関する情報を表示します。
ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
shutdown (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします (「shutdown」 (P.4-115) を参照)。
ipv6 address autoconfig	インターフェイスで IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにします。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

ip address

イーサネット インターフェイスに対し、IP アドレスとネットマスクを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip address** コマンドを使用します。IP アドレスを削除するか、IP プロセッシングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip address *ip-address network mask*

(注)

複数のインターフェイスで、同じ IP アドレスを設定できます。この設定により、2 つのインターフェイス間の切り替えに必要なコンフィギュレーション手順を制限できます。

構文の説明

<code>ip address</code>	GigabitEthernet インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定するコマンド。
<code>ip-address</code>	IPv4 バージョンの IP アドレス。
<code>network mask</code>	関連付けられた IP サブネットのマスク。

デフォルト

有効です。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

アドレスとネットマスクを必ず 1 つずつ指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

例

```
/admin(config)# interface GigabitEthernet 1
/admin(config-GigabitEthernet)# ip address 209.165.200.227 255.255.255.224
Changing the hostname or IP may result in undesired side effects,
such as installed application(s) being restarted.
.....
To verify that CDA processes are running, use the
'show application status cda' command.
/admin(config-GigabitEthernet)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>shutdown</code> (インターフェイス コンフィギュレーションモード)	インターフェイスをディセーブルにします (「 <code>shutdown</code> 」 (P.4-115) を参照)。
<code>ip default-gateway</code>	インターフェイスのデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを設定します。
<code>show interface</code>	システムの IP インターフェイスに関する情報を表示します。
<code>interface</code>	インターフェイス タイプを設定してインターフェイス モードに入ります。

ip default-gateway

IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義または設定するには、コンフィギュレーションモードで `ip default-gateway` コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

ip default-gateway ip-address

構文の説明	ip default-gateway	IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義するコマンド。
		ip-address

デフォルト 無効です。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン 複数の引数を指定した場合、または引数を指定していない場合はエラーが発生します。

例

```
/admin(config)# ip default-gateway 209.165.202.129
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
		ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)

ip domain-name

Cisco CDA サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義するには、コンフィギュレーション モードで **ip domain-name** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip domain-name word

構文の説明	ip domain-name	デフォルトのドメイン名を定義するコマンド。
		word

デフォルト 有効です。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン 入力した引数が多すぎる場合または不足している場合、エラーが発生します。

例

```
/admin(config)# ip domain-name cisco.com
```

```
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>ip name-server</code>	DNS クエリー時に使用する DNS サーバを設定します。

ip name-server

DNS クエリー実行時に使用するドメイン ネーム サーバ (DNS) のサーバを設定するには、コンフィギュレーション モードで **ip name-server** コマンドを使用します。1 ~ 3 台の DNS サーバを設定できます。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。



(注)

このコマンドの **no** 形式を使用すると、設定からすべてのネーム サーバが削除されます。このコマンドの **no** 形式と IP 名の 1 つを使用すると、そのネーム サーバだけが削除されます。

ip name-server ip-address [ip-address*]

構文の説明

<code>ip name-server</code>	使用するネーム サーバの IP アドレスを設定するコマンド。
<code>ip-address</code>	ネーム サーバのアドレス。
<code>ip-address*</code>	(任意) 追加のネーム サーバの IP アドレス。 (注) ネーム サーバは、最大 3 台まで設定できます。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

ip name-server コマンドを使用して追加される最初のネーム サーバは、最初の位置を占有します。システムは、最初にこのネーム サーバを使用して IP アドレスを解決します。

ネーム サーバは、最大数 (3 台) に達するまで、一度に 1 台またはすべてを追加できます。システムにすでに 3 台のネーム サーバが設定されている場合、少なくとも 1 台を削除するまでネーム サーバを追加できません。

1 台のネーム サーバを最初の位置に配置して、サブシステムがまずそのサーバを使用するようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用してすべてのネーム サーバを削除してから処理を進める必要があります。

例

```
/admin(config)# ip name-server 209.165.201.1
```

```
To verify that CDA processes are running, use the
'show application status cda' command.
/admin(config)#
```

Cisco CDA を再起動しないように選択することはできますが、変更は有効になります。

関連コマンド

コマンド	説明
<code>ip domain-name</code>	サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義します。

ip route

スタティック ルートを設定するには、コンフィギュレーション モードで **ip route** コマンドを使用します。スタティック ルートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

スタティック ルートは手動で設定されるため、柔軟性はありませんが（ネットワーク トポロジーの変化に動的に適用できません）、非常に安定しています。スタティック ルートは、ルーティング アップデートを送信することなく維持できるため、帯域幅の使用率を最適化できます。また、ルーティング ポリシーの実施を容易にします。

ip route *prefix mask gateway ip-address*

no ip route *prefix mask*

構文の説明

<code>ip route</code>	IP ルートを設定するコマンド。
<i>prefix</i>	宛先の IP ルート プレフィックス。
<i>mask</i>	宛先のプレフィックス マスク。
<i>ip-address</i>	ネットワークに到達するために使用可能なネクスト ホップの IP アドレス。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

例

```
/admin(config)# ip route 192.168.0.0 255.255.0.0 gateway 172.23.90.2
/admin(config)#
```

kron occurrence

1 つまたは複数のコマンド スケジューラ コマンドが、特定の日に、または繰り返して実行されるようにスケジューリングするには、コンフィギュレーション モードで **kron occurrence** コマンドを使用します。このスケジュールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

kron {**occurrence**} *occurrence-name*


構文の説明

<code>kron</code>	コマンド スケジューラ コマンドをスケジューリングするためのコマンド。
<i>occurrence</i>	コマンド スケジューラ コマンドをスケジューリングします。
<i>occurrence-name</i>	オカレンスの名前。80 文字までの英数字で指定します。（次の「注」と「構文の説明」を参照）。



(注)

kron occurrence コマンドで *occurrence-name* キーワードを入力すると、**config-occurrence** コンフィギュレーション サブモードに入ります (この「構文の説明」を参照)。

at	指定した日時にオカレンスが実行されるように指定します。使用方法 : at [hh:mm] [day-of-week day-of-month month day-of-month]
do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドが実行できます (「do」(P.4-87) を参照)。
end	kron-occurrence コンフィギュレーション サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	kron-occurrence コンフィギュレーション モードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。 次の 3 つのキーワードを使用可能です。 <ul style="list-style-type: none"> • at : 使用方法 : at [hh:mm] [day-of-week day-of-month month day-of-month] • policy-list : オカレンスによって実行されるポリシー リストを指定します。80 文字までの英数字で指定します。 • recurring : ポリシー リストの実行を繰り返します。
policy-list	オカレンスによって実行されるコマンド スケジューラ ポリシー リストを指定します。
recurring	繰り返して実行するオカレンスを指定します。  (注) kron occurrence を繰り返して実行しない場合、スケジュール設定されたバックアップの kron occurrence コンフィギュレーションは実行後に削除されます。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

kron occurrence コマンドおよび **policy-list** コマンドを使用して、1 つ以上のポリシー リストを同じ時間または間隔で実行されるようにスケジュールします。

EXEC CLI コマンドを含むコマンド スケジューラ ポリシーを作成して、指定した時刻に Cisco CDA サーバで実行されるようにスケジュールするには、**kron policy-list** コマンドとともに **cli** コマンドを使用します。「**kron policy-list**」(P.4-102) を参照してください。



例

(注) **kron** コマンドを実行すると、一意の名前 (タイム スタンプの追加により) でバックアップ バンドルが作成されるので、互いに上書きされることはありません。

例 1 : 週次バックアップ

```
/admin(config)# kron occurrence WeeklyBackup
/admin(config-Occurrence)# at 14:35 Monday
```

```

/admin(config-Occurrence)# policy-list SchedBackupPolicy
/admin(config-Occurrence)# recurring
/admin(config-Occurrence)# exit
/admin(config)#

```

例 2 : 日次バックアップ

```

/admin(config)# kron occurrence DailyBackup
/admin(config-Occurrence)# at 02:00
/admin(config-Occurrence)# exit
/admin(config)#

```

例 3 : 週次バックアップ

```

/admin(config)# kron occurrence WeeklyBackup
/admin(config-Occurrence)# at 14:35 Monday
/admin(config-Occurrence)# policy-list SchedBackupPolicy
/admin(config-Occurrence)# no recurring
/admin(config-Occurrence)# exit
/admin(config)#

```

関連コマンド

コマンド	説明
kron policy-list	コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定します。

kron policy-list

コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定し、**kron-Policy List** コンフィギュレーション サブモードに入るには、コンフィギュレーション モードで **kron policy-list** コマンドを使用します。コマンド スケジューラ ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

kron {policy-list} list-name

構文の説明

kron	コマンド スケジューラ コマンドをスケジューリングするためのコマンド。
policy-list	コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定します。
list-name	ポリシー リストの名前。80 文字までの英数字で指定します。

**(注)**

kron policy-list コマンドで *list-name* を入力すると、**config-Policy List** コンフィギュレーション サブモードに入ります (この「構文の説明」を参照)。

cli	スケジューラによって実行されるコマンド。80 文字までの英数字で指定します。
do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドが実行できます (「do」(P.4-87) を参照)。
end	config-Policy List コンフィギュレーション サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	このサブモードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。次の 1 つのキーワードが使用可能です。 <ul style="list-style-type: none"> cli : スケジューラによって実行されるコマンド。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン EXEC CLI コマンドを含むコマンド スケジューラ ポリシーを作成して、指定した時刻に CDA サーバで実行されるようにスケジューリングするには、**kron policy-list** コマンドとともに **cli** コマンドを使用します。**kron occurrence** コマンドおよび **policy list** コマンドを使用して、1 つ以上のポリシー リストを同じ時間または間隔で実行されるようにスケジューリングします。「[ip route](#)」(P.4-100) を参照してください。

例

```
/admin(config)# kron policy-list SchedBackupMonday
/admin(config-Policy List)# cli backup SchedBackupMonday repository SchedBackupRepo
/admin(config-Policy List)# exit
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ip route	コマンド スケジューラ オカレンスのスケジュール パラメータを指定して、 config-Occurrence コンフィギュレーション モードに入ります。

logging

システムによるリモート システムへのログの転送や、ログ レベルのコンフィギュレーションをイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **logging** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging {*ip-address* | *hostname*} {**loglevel** *level*}

構文の説明	logging	システム ログイングを設定するコマンド。
	<i>ip-address</i>	ログを転送するリモート システムの IP アドレス。32 文字までの英数字で指定します。
	<i>hostname</i>	ログを転送するリモート システムのホスト名。32 文字までの英数字で指定します。
	loglevel	logging コマンドのログ レベルを設定するコマンド。

<i>level</i>	<p>ログメッセージを設定する希望のプライオリティ レベルの番号。プライオリティ レベルは以下のとおりです（キーワードの番号を入力）。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0-emerg（緊急事態）：システムが使用不可。 • 1-alert（アラート）：ただちに処置が必要。 • 2-crit（クリティカル）：クリティカルな状態。 • 3-err（エラー）：エラー状態。 • 4-warn（警告）：警告状態。 • 5-notif（通知）：正常であるが、重要な状態。 • 6-inform：（デフォルト）情報メッセージ。 • 7-debug：デバッグメッセージ。
--------------	---

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン このコマンドでは、IP アドレス、ホスト名、または **loglevel** キーワードのいずれかを指定する必要があります。これらの引数を複数指定するとエラーが発生します。

例 1

```
/admin(config)# logging 209.165.200.225
/admin(config)#
```

例 2

```
/admin(config)# logging loglevel 0
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging	システムのログ リストを表示します。

ntp

NTP コンフィギュレーションを指定するには、コンフィギュレーション モードで、**authenticate** コマンド、**authentication-key** コマンド、**server** コマンド、および **trusted-key** コマンドとともに **ntp** コマンドを使用します。

ntp authenticate

ntp authentication-key <key id> md5 hash | plain <key value>

ntp server {ip-address | hostname} key <peer key number>

ntp trusted-key <key>

構文の説明	ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するためのコマンド。
-------	-----	------------------------------

デフォルト	なし
-------	----

コマンド モード	コンフィギュレーション
----------	-------------

使用上のガイドライン	<p>ntp コマンドを使用して NTP コンフィギュレーションを指定します。</p> <p>デバイス上で NTP サービスを終了するには、authenticate、authentication-key、server、および trusted-key などのキーワードや引数を指定して、no ntp コマンドを入力する必要があります。たとえば、以前に ntp server コマンドを発行した場合は、server とともに no ntp コマンドを使用します。</p> <p>NTP サーバの設定方法の詳細については、「ntp server」(P.4-108) を参照してください。</p>
------------	---

例	<pre> /admin(config)# ntp ? authenticate Authenticate time sources authentication-key Authentication key for trusted time sources server Specify NTP server to use trusted-key Key numbers for trusted time sources /admin(config)# /admin(config)# no ntp server /admin(config)# do show ntp % no NTP servers configured /admin(config)# </pre>
---	--

関連コマンド	コマンド	説明
	ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
	ntp authentication-key	信頼されている時刻源の認証キーを設定します。
	ntp server	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアのクロックを同期化します。
	ntp trusted-key	NTP 認証キーとして定義する必要がある信頼されている時刻源のキー番号を指定します。
	show ntp	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

ntp authenticate

すべての時間源の認証をイネーブルにするには、**ntp authenticate** コマンドを使用します。NTP 認証キーを持たない時間源は、同期されません。

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ntp authenticate

構文の説明	ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
	authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。

■ コンフィギュレーション コマンド

デフォルト なし

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン **ntp authenticate** コマンドを使用して、すべての時間源の認証をイネーブルにします。このコマンドはオプションであり、認証はこのコマンドなしでも機能します。

一部のサーバにのみ認証が必要（つまり、一部のサーバにのみ認証用に設定されたキーが必要）な混合モードで認証する場合は、このコマンドを実行しないでください。

例

```

/admin(config)# ntp ?
  authenticate      Authenticate time sources
  authentication-key Authentication key for trusted time sources
  server            Specify NTP server to use
  trusted-key       Key numbers for trusted time sources
/admin(config)#

/admin(config)# ntp authenticate
/admin(config)#

```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
ntp authentication-key	信頼されている時刻源の認証キーを設定します。
ntp server	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアのクロックを同期化します。
ntp trusted-key	NTP 認証キーとして定義する必要がある信頼されている時刻源のキー番号を指定します。
show ntp	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

ntp authentication-key

時間源の認証キーを指定する場合は、コンフィギュレーション モードで一意的識別子およびキー値を指定して **ntp authentication-key** コマンドを使用します。

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ntp authentication-key <key id> md5 hash | plain <key value>

構文の説明

ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
authentication-key	信頼されている時刻源の認証キーを設定します。
key id	このキーに割り当てる識別子。1 ~ 65535 の数値をサポートします。
md5	認証キーの暗号化タイプ。
hash <word>	認証のハッシュ キー。暗号化タイプに続く暗号化（ハッシュ）キーを指定します。40 文字までで指定します。

<i>plain</i> <word>	認証のプレーンテキスト キー。暗号化タイプに続く 暗号化されていない プレーンテキスト キーを指定します。15 文字までサポートします。
<key value>	上記の md5 plain hash のいずれかに一致する形式のキー値。

デフォルト

なし

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

ntp authentication-key コマンドを使用して NTP 認証の認証キーを持つ時間源を設定し、関連するキー ID、キー暗号化タイプ、およびキー値の設定を指定します。このキーを信頼できるリストに追加してから **ntp server** コマンドに追加します。

信頼できるリストに追加された NTP 認証キーを持たない時間源は、同期されません。

例

```
/admin# configure
/admin(config)#
/admin(config)# ntp authentication-key 1 md5 plain SharedWithServe
/admin(config)# ntp authentication-key 2 md5 plain SharedWithServ
/admin(config)# ntp authentication-key 3 md5 plain SharedWithSer
```



(注) **show running-config** コマンドは、セキュリティのため、Message Digest 5 (MD5) プレーン形式で入力されたキーを常にハッシュ形式に変換して表示します。たとえば、**ntp authentication-key 1 md5 hash ee18afc7608ac7ecdbeefc5351ad118bc9ce1ef3** のように表示します。

```
/admin(config)# no ntp authentication-key 3
(認証キー 3 を削除します)
```

```
/admin(config)# no ntp authentication-key
(すべての認証キーを削除します)
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
ntp server	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアのクロックを同期化します。
ntp trusted-key	NTP 認証キーとして定義する必要がある信頼されている時刻源のキー番号を指定します。
show ntp	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

ntp server

NTP サーバによるシステムのソフトウェアの時計の同期化を許可するには、コンフィギュレーションモードで **ntp server** コマンドを使用します。別の行のそれぞれのキーで、サーバを最大 3 つまで許可します。キーはオプションのパラメータですが、NTP 認証には必須です。Cisco CDA には、常に有効で到達可能な NTP サーバが必要です。

キーはオプションのパラメータですが、NTP サーバを認証する必要がある場合は設定する必要があります。

この機能をディセーブルにするには、NTP サーバを削除して別のサーバを追加する場合のみ、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ntp server {ip-address | hostname} key <peer key number>
```

構文の説明

ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
server	システムが指定したサーバと同期することを許可します。
ip-address hostname	時計の同期を提供するサーバの IP アドレスまたはホスト名。引数は 255 文字までの英数字で指定します。
key	(任意) ピア キーの番号。65535 文字までの数字で指定します。このキーは、 ntp authentication-key コマンドを使用して、キー値で定義する必要があります。また、 ntp trusted-key コマンドを使用して、信頼できるキーとして追加する必要があります。認証を有効にするには、キーおよびキー値が、実際の NTP サーバ上で定義されたキーおよびキー値と同じである必要があります。

デフォルト

デフォルトで設定されているサーバはありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

システムが指定したサーバと同期することを許可する場合は、信頼できるキーを指定して **ntp server** コマンドを使用します。

キーはオプションですが、NTP 認証に対しては必須です。まず、このキーを **ntp authentication-key** コマンドで定義し、**ntp trusted-key** コマンドに追加した後、**ntp server** コマンドに追加します。

show ntp コマンドは、同期のステータスを表示します。設定された NTP サーバが到達可能でない場合、または認証されていない場合 (NTP 認証が設定されている場合) は、このコマンドは最小層のローカルに対する同期を表示します。NTP サーバが到達不能か、または適切に認証されていない場合は、このコマンドごとの統計情報の到達は 0 になります。

Cisco CDA 管理ユーザ インターフェイスで NTP サーバ コンフィギュレーションおよび認証を定義するには、『[Cisco Identity Services Engine User Guide, Release 1.1.1](#)』の「System Time」および「NTP Server Settings」の項を参照してください。



(注)

このコマンドは、同期プロセス中に競合する情報を提供します。同期プロセスは、完了までに最大 20 分かかることがあります。

例

例 1

```

/admin(config)# ntp server ntp.esl.cisco.com key 1
% WARNING: Key 1 needs to be defined as a ntp trusted-key.
/admin(config)#
/admin(config)# ntp trusted-key 1
% WARNING: Key 1 needs to be defined as a ntp authentication-key.
/admin(config)#
/admin(config)# ntp authentication-key 1 md5 plain SharedWithServe
/admin(config)#

/admin(config)# ntp server ntp.esl.cisco.com 1
/admin(config)# ntp server 171.68.10.80 2
/admin(config)# ntp server 171.68.10.150 3
/admin(config)#
/admin(config)# do show running-config
Generating configuration...
!
hostname cda
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.21.79.246 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.21.79.1
!
clock timezone UTC
!
ntp authentication-key 1 md5 hash ee18afc7608ac7ecdbbeefc5351ad118bc9ce1ef3
ntp authentication-key 2 md5 hash f1ef7b05c0d1cd4c18c8b70e8c76f37f33c33b59
ntp authentication-key 3 md5 hash ee18afc7608ac7ec2d7ac6d09226111dce07da37
ntp trusted-key 1
ntp trusted-key 2
ntp trusted-key 3
ntp authenticate
ntp server ntp.esl.cisco.com key 1
ntp server 171.68.10.80 key 2
ntp server 171.68.10.150 key 3
!
--More--
/admin# show ntp
Primary NTP      : cd-acis-ntp.cisco.com

synchronised to local net at stratum 11
  time correct to within 448 ms
  polling server every 64 s

      remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
*127.127.1.0        .LOCL.           10 l  46  64  37   0.000   0.000   0.001
 171.68.10.80       .RMOT.           16 u  46  64   0   0.000   0.000   0.000
 171.68.10.150     .INIT.           16 u  47  64   0   0.000   0.000   0.000

Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.

/admin#

```

関連コマンド	コマンド	説明
	ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
	ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
	ntp authentication-key	信頼されている時刻源の認証キーを設定します。
	ntp trusted-key	NTP 認証キーとして定義する必要がある信頼されている時刻源のキー番号を指定します。
	show ntp	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

ntp trusted-key

時間源を信頼できるリストに追加するには、一意の識別子を指定して **ntp trusted-key** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ntp trusted-key <key>

構文の説明		
	<code>ntp</code>	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
	<code>trusted-key</code>	このキーに割り当てる識別子。
	<code>key</code>	NTP 認証キーとして定義する必要がある信頼されている時刻源のキー番号を指定します。65535 文字までの数字で指定します。

デフォルト なし

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン このキーを NTP 認証キーとして定義し、NTP サーバに追加する前に信頼できるリストに追加します。信頼できるリストに追加されたキーは、NTP サーバによってシステムとの同期を許可する場合にのみ使用できます。

例

```

/admin# configure
/admin(config)#
/admin(config)# ntp trusted-key 1
/admin(config)# ntp trusted-key 2
/admin(config)# ntp trusted-key 3

/admin(config)# no ntp trusted-key 2
(key 2 を信頼できるリストから削除します)

/admin(config)# no ntp trusted-key
(すべてのキーを信頼できるリストから削除します)

```

関連コマンド	コマンド	説明
	ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
	ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
	ntp authentication-key	信頼されている時刻源の認証キーを設定します。

コマンド	説明
<code>ntp server</code>	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアのクロックを同期化します。
<code>show ntp</code>	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

password-policy

システムに対するパスワードをイネーブル化または設定するには、コンフィギュレーション モードで **password-policy** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

password-policy option



(注)

password-policy コマンドには、ポリシー オプションが必要です（「構文の説明」を参照）。**password-expiration-enabled** は、他の **password-expiration** コマンドの前に入力する必要があります。

構文の説明

<code>password-policy</code>	パスワード ポリシーを設定するコマンド。
------------------------------	----------------------



(注) **password-policy** コマンドを入力すると、**config-password-policy** コンフィギュレーション サブモードに入ることができます。

<code>digit-required</code>	パスワードには数字が含まれている必要があります。
<code>disable-repeat-characters</code>	5 つ以上の同一の文字を含んでいるパスワードの機能をディセーブルにします。
<code>disable-cisco-password</code>	パスワードに、「Cisco」や「Cisco」を含む語を使用できないようにします。
<code>do</code>	EXEC コマンド。
<code>end</code>	コンフィギュレーション モードを終了します。
<code>exit</code>	このサブモードを終了します。
<code>lower-case-required</code>	パスワードに小文字が含まれている必要があります。
<code>min-password-length</code>	有効なパスワードの最小文字数を指定します。0 ~ 4,294,967,295 の整数で指定します。
<code>no</code>	コマンドを無効にするか、そのデフォルトに設定します。
<code>no-previous-password</code>	前回のパスワードの一部を再使用できないようにします。
<code>no-username</code>	パスワードにユーザ名を含めることを禁止します。
<code>password-expiration-days</code>	パスワードの有効日数。0 ~ 80 の整数で指定します。
<code>password-expiration-enabled</code>	パスワードの有効期限をイネーブルにします。 (注) password-expiration-enabled は、他の password-expiration コマンドの前に入力する必要があります。
<code>password-expiration-warning</code>	パスワードの期限が迫っていることを通知する警告を開始するまでの日数。0 ~ 4,294,967,295 の整数で指定します。
<code>password-lock-enabled</code>	指定した回数の試行が失敗したら、パスワードをロックします。

password-lock-retry-count	試行回数を指定します。この回数の試行が失敗するとパスワードがロックされます。0 ~ 4,294,967,295 の整数で指定します。
upper-case-required	パスワードに大文字が含まれている必要があります。
special-required	パスワードに特殊文字が含まれている必要があります。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin(config)# password-policy
/admin(config-password-policy)# password-expiration-days 30
/admin(config-password-policy)# exit
/admin(config)#
```

repository

バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入るには、コンフィギュレーション モードで **repository** コマンドを使用します。

repository repository-name


構文の説明	repository	リポジトリを設定するコマンド。
	repository-name	リポジトリの名前。80 文字までの英数字で指定します。



(注) **repository** コマンドでリポジトリの名前を入力すると、config-Repository コンフィギュレーション サブモードに入ります (この「構文の説明」を参照)。

do	EXEC コマンド。このモードですべての EXEC コマンドを実行できます (「do」 (P.4-87) を参照)。
end	config-Repository サブモードを終了して EXEC モードに戻ります。
exit	このモードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。 次の 2 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> url : リポジトリの URL。 user : リポジトリにアクセスするためのユーザ名とパスワード。
url	リポジトリの URL。80 文字までの英数字で指定します (表 4-17 を参照)。
user	アクセスするためのユーザ名とパスワードを設定します。30 文字までの英数字で指定します。

表 4-17 URL のキーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
<i>word</i>	サーバおよびパス情報を含むリポジトリの URL を入力します。80 文字までの英数字で指定します。
cdrom:	ローカルの CD-ROM ドライブ (読み取り専用)。
disk:	ローカル ストレージ。 ローカル リポジトリのすべてのファイルを表示するには、 show repository repository_name を実行します。 (注) すべてのローカル リポジトリは、/localdisk パーティションに作成されます。リポジトリの URL で disk:// を指定すると、システムは、/localdisk に対する相対パスでディレクトリを作成します。たとえば、 disk://backup と指定すると、ディレクトリは /localdisk/backup に作成されます。
ftp:	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。ftp://server/path ¹ という URL を使用します。
nfs:	NFS ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。nfs://server:path ¹ という URL を使用します。
sftp:	SFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。sftp://server/path ¹ という URL を使用します。
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。tftp://server/path ¹ という URL を使用します。  (注) Cisco CDA のアップグレードの実行に、TFTP リポジトリは使用できません。

1. server はサーバ名です。path は /subdir/subsubdir を指します。NFS ネットワーク サーバのサーバ名の後には、コロン (:) が必要です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

サブモードで **url sftp:** を設定する場合は、CLI を通してリポジトリ コンフィギュレーション下で **host-key** を提供し、RSA フィンガープリントを SSH 既知ホストに追加する必要があります。

この機能をディisableにするには、サブモードで **host-key host** コマンドの **no** 形式を使用します。

Secure FTP リポジトリを [Administration] > [System] > [Maintenance] > [Repository] > [Add Repository] の管理ユーザ インターフェイスで設定する場合、Cisco CDA は次の警告を表示します。

このリポジトリを使用するためには、SFTP サーバのホスト キーを CLI を通して **host-key** オプションを指定して追加する必要があります。

ホスト キーを設定せずに Secure FTP リポジトリにバックアップしようとする、Cisco ADE ログに対応するエラーが発生します。

例 1

```

/admin# configure terminal
/admin(config)# repository myrepository
/admin(config-Repository)# url sftp://cda
/admin(config-Repository)# host-key host cda
host key fingerprint added
# Host cda found: line 1 type RSA
2048 f2:e0:95:d7:58:f2:02:ba:d0:b8:cf:d5:42:76:1f:c6 cda (RSA)

/admin(config-Repository)# exit
/admin(config)# exit
/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
backup	(Cisco CDA および Cisco ADE OS) バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
restore	復元を実行して、リポジトリからバックアップを取得します。
show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。
show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

service

管理するサービスを指定するには、コンフィギュレーション モードで **service** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

service sshd

構文の説明

service	管理対象のサービスを指定するコマンド。
sshd	Secure Shell Daemon。SSH のデーモン プログラムです。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

なし。

例

```

/admin(config)# service sshd
/admin(config)#

```

shutdown

インターフェイスをシャットダウンするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **shutdown** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

このコマンドを使用してインターフェイスをシャットダウンすると、そのインターフェイスを経由の Cisco CDA アプライアンスへの接続性が失われます。これは、アプライアンスの電源が投入されていても変わりません。ただし、アプライアンス上に別の IP を使用して 2 番目のインターフェイスを設定し、そのインターフェイスがシャットダウンされていないければ、その 2 番目のインターフェイス経由でアプライアンスに接続できます。

インターフェイスをシャットダウンする別の方法として、ONBOOT パラメータを使用して、*/etc/sysconfig/network-scripts* にある *ifcfg-eth[0,1]* ファイルを変更することもできます。

- インターフェイスをディセーブルにするには、ONBOOT="no" と設定します。
- インターフェイスをイネーブルにするには、ONBOOT="yes" と設定します。

no shutdown コマンドを使用して、インターフェイスをイネーブルにすることもできます。

例

```
/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
/admin(config-GigabitEthernet)# shutdown
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface	インターフェイス タイプを設定してインターフェイス モードに入ります。
ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	イーサネットインターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
show interface	システムの IP インターフェイスに関する情報を表示します。
ip default-gateway	インターフェイスのデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

snmp-server community

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server community** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server community word ro

構文の説明

<code>snmp-server community</code>	SNMP サーバを設定するコマンド。
<code>word</code>	パスワードのように機能するアクセス文字列。これによって SNMP へのアクセスが許可されます。空白は使用できません。255 文字までの英数字で指定します。
<code>ro</code>	読み取り専用アクセスを指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

snmp-server community コマンドでは、コミュニティ スtring と引数 **ro** を指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

Cisco CDA の SNMP エージェントは、次の MIB への読み取り専用 SNMP v1 および SNMP v2c アクセスを提供します。

- SNMPv2-MIB
- RFC1213-MIB
- IF-MIB
- IP-MIB
- IP-FORWARD-MIB
- TCP-MIB
- UDP-MIB
- HOST-RESOURCES-MIB
- ENTITY-MIB : ENTITY-MIB では、次の 3 つの MIB 変数のみがサポートされています。
 - 製品 ID : `entPhysicalModelName`
 - バージョン ID : `entPhysicalHardwareRev`
 - シリアル番号 : `entPhysicalSerialNumber`
- DISMAN-EVENT-MIB
- NOTIFICATION-LOG-MIB
- CISCO-CDP-MIB

例

```
/admin(config)# snmp-server community new ro
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server host	トラップをリモート システムに送信します。
snmp-server location	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
snmp-server contact	システムで SNMP 接続の MIB 値を設定します。

snmp-server contact

SNMP 接続の管理情報ベース (MIB) 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server contact** コマンドを使用します。システム連絡先情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server contact *word*

構文の説明

snmp-server contact	この管理対象ノードの連絡先担当者を識別するためのコマンド。255 文字までの英数字で指定します。
<i>word</i>	ノードのシステム連絡先情報を表す文字列。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

なし。

例

```
/admin(config)# snmp-server contact Luke
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server host	トラップをリモート システムに送信します。
snmp-server community	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定します。
snmp-server location	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。

snmp-server host

SNMP トラップをリモート ユーザに送信するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server host** コマンドを使用します。トラップ転送を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server host {*ip-address* | *hostname*} **version** {*1* | *2c*} *community*

構文の説明

snmp-server host	SNMP 通知を受信するホストを設定するコマンド。
<i>ip-address</i>	SNMP 通知ホストの IP アドレス。32 文字までの英数字で指定します。
<i>hostname</i>	SNMP 通知ホストの名前。32 文字までの英数字で指定します。

■ コンフィギュレーション コマンド

<code>version {1 2c}</code>	(任意) トラップの送信に使用する SNMP のバージョンです。デフォルトは 1 です。 version キーワードを使用する場合は、次のキーワードのいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 1 : SNMPv1。 2c : SNMPv2C。
<code>community</code>	通知処理で送信されるパスワードに類似のコミュニティ ストリング。

デフォルト 無効です。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン 一覧に記載されている引数を指定します。指定しない場合、エラーが発生します。SNMP トラップはサポートされていません。

例

```
/admin(config)# snmp-server community new ro
/admin(config)# snmp-server host 209.165.202.129 version 1 password
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	snmp-server community	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定します。
	snmp-server location	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
	snmp-server contact	システムで SNMP 接続の MIB 値を設定します。

snmp-server location

SNMP ロケーションの MIB 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server location** コマンドを使用します。システム ロケーション情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server location word

構文の説明	構文	説明
	<code>snmp-server location</code>	この管理対象ノードの物理的な場所を設定するコマンド。255 文字までの英数字で指定します。
	<code>word</code>	システムの物理的な場所情報を記述する文字列。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン *word* の文字列では、単語の間にアンダスコア (_) またはハイフン (-) を使用することをお勧めします。*word* の文字列で単語の間に空白を使用する場合、文字列を二重引用符 (") で囲む必要があります。

例 1

```
/admin(config)# snmp-server location Building_3/Room_214
/admin(config)#
```

例 2

```
/admin(config)# snmp-server location "Building 3/Room 214"
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server host	トラップをリモート システムに送信します。
snmp-server community	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定します。
snmp-server contact	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。

username

SSH を使用して Cisco CDA アプライアンスにアクセスできるユーザを追加するには、コンフィギュレーション モードで **username** コマンドを使用します。ユーザがすでに存在する場合は、このコマンドを使用してパスワード、特権レベル、または両方を変更します。システムからユーザを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
username username password {hash | plain} password role {admin | user} [disabled [email
email-address]] [email email-address]
```

既存のユーザに対しては、以下のコマンド オプションを使用します。

```
username username password role {admin | user} password
```

構文の説明

<code>username</code>	SSH を使用して Cisco CDA アプライアンスにアクセスするユーザを作成するためのコマンド。
<code><i>username</i></code>	引数 <code>username</code> には 1 つの単語のみを指定できます。空白や二重引用符 (") は使用できません。31 文字までの英数字で指定します。
<code>password</code>	パスワードおよびユーザ ロールを指定するために使用するコマンド。
<code><i>password</i></code>	パスワード。40 文字までの英数字で指定します。パスワードは、すべての新規ユーザに指定する必要があります。
<code>hash plain</code>	パスワードのタイプ。34 文字までの英数字で指定します。
<code>role admin user</code>	ユーザの権限レベルを設定します。
<code>disabled</code>	ユーザの電子メール アドレスに従って、ユーザをディセーブルにします。
<code>email <i>email-address</i></code>	ユーザの電子メール アドレス。たとえば、 <code>user1@mydomain.com</code> のように指定します。

■ コンフィギュレーション コマンド

デフォルト 設定時の初期ユーザです。

コマンド モード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン **username** コマンドでは、**username** および **password** キーワードの後に、**hash** | **plain** および **admin** | **user** オプションを指定する必要があります。

例 1

```
/admin(config)# username admin password hash ##### role admin
/admin(config)#
```

例 2

```
/admin(config)# username admin password plain Secr3tp@swd role admin
/admin(config)#
```

例 3

```
/admin(config)# username admin password plain Secr3tp@swd role admin email
admin123@mydomain.com
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
password-policy	パスワード ポリシーをイネーブルにして設定します。
show users	ユーザとそれぞれの権限レベルの一覧を表示します。これにはまた、ログイン ユーザの一覧も表示されます。